

令和 3 年度（2021 年度）

事業報告書

自 令和 3 年 4 月 1 日

至 令和 4 年 3 月 31 日

エグゼクティブサマリー	1
I. 法人の概要	3
II. 実施事業と成果	12
1. 森ノ宮医療大学	12
2. 森ノ宮医療学園専門学校	47
3. 森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール	56
4. みどりの風クリニック	62
5. みどりの風鍼灸院	66
6. 京都治療院	70
7. 出版部	73
8. 派遣事業部	75
III. 決算の概要	76

本報告書は、平成 21 年 2 月 17 日付日本公認会計士協会「学校法人における事業報告書の記載例について」を参考に構成しています。

エグゼクティブサマリー（プロフィットセンター別概要）

区分	概要
森ノ宮医療大学	大学の質を高め、ブランディングを構築し、在校生・保護者・教職員・地域等、様々なステークホルダーの満足度を高めるべく、教育/研究事業のさらなる発展施策に取り組み、さらに地域に根付く医療系大学として、社会連携事業・地域貢献事業を積極的に展開した。教職員が協働し、学部再編・新学科設置/新校舎建築準備・クリニック新設準備・教育プログラムのブラッシュアップ・インクルーシブ医科学研究所の稼働・企業連携事業・職域接種等を展開した。
森ノ宮医療学園専門学校	2021年度は2020年度から続くコロナ禍により、中期経営計画に掲げる事業の全てを実施することは難しかった。専門学校の大きな課題である、「定員充足率の向上」「国家試験合格率の向上」を中心に2021年度事業は実施した。定員充足率の向上のために、入学広報課と教務課が協力して、オープンキャンパス内容の充実などを行ったが、2020年度に比べて募集人数を下げることであった。その要員として、コロナ禍・合格率の低迷・教育訓練給付制度などの変更が掲げられる。国家試験合格率の向上については、教務課で1年生から3年生を対象として、診断テストや模擬試験の実施、課題ドリルの作成、ゼミ動画の配信などを行った。例年、国家試験直前には成績不良者を対象とした講座を実施しているが、1月からの感染拡大により専門学校はハイブリッドにより授業形態を取らざるを得ず、成績不良者に対して最後の取組を実施することができず、合格率を上げることができなかった。 施設・設備については、コロナ禍でも学生の学習を止めないための取組を実施した。1・2年生の登校時間の制限、3年生の自習室の確保、欠席者が動画を視聴できるように動画機材の拡充などを行った。
森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール	2021年度から学校名を森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクールにし、介護福祉学科をスタートした。日本語学科、介護福祉学科でコロナ対策をしつつ授業を行った。学生に対して、コロナ禍での対応を指導した。新規で学生寮をスタートさせた。
みどりの風クリニック	新型コロナ感染症の陽性者が患者から発生していたが、院内クラスターとならないように感染対策を引き続き徹底し対応した。新型コロナ感染症の影響も若干改善へ向かい、連動して来院控えの患者増加に繋がったが、1月よりリハビリスタッフの離職者が複数名出たため、リハビリ患者数は頭打ちになった。コロナ禍で中止していた専門学校柔道整復学科の臨床実習、卒後臨床研修などは再開した。大学キャンパス内へのクリニック移転

	に向けワーキンググループを立ち上げ、順調に準備を進めている。
みどりの風 鍼灸院	2020 年からのコロナ禍で患者数の減少が余儀なくされた。臨床実習の充実させるため患者数を増やす対策について。①鍼灸保険治療のホームページの完成。②数年前から保険鍼灸を導入して年々患者数が増加している。③保険診療を希望されるが同意書がとれない患者のための 10 割負担の導入で若干名ではあるが継続来院されている。④2021 年 6 月から往診施術を実施した。1 名の患者が保険診療で往診を継続されている。2021 年度の年間総患者数は 4,313 人(月平均約 359.4 人)となる。前年度 2020 年の 3,895 人(月平均約 324.6 人)と比べて 418 人増(月平均約 34.8 人増)と患者数は増加した。
京都治療院	2021 年度のコロナ感染数は昨年度より大幅に増加したものの、ワクチン接種、with コロナの社会的認識もあり、昨年度と同程度の鍼灸・接骨の患者数及び売上であった。また、スポーツ大会等開催が緩和されたものの、大学運動部での新入生勧誘活動等の制限、感染時の練習停止等により、当治療院での主要患者層である大学運動部員の集患が前年同様に厳しい状況であった。
出版部	全国の鍼灸師・柔整師養成校の先駆けとなる森ノ宮ブランドの確立の一翼を担い、学園の出版部として長年培ってきたノウハウを活かしつつ、本出版部ならではの意義を再確認し、学校法人が収益事業として運営している出版部の名に恥じないような活動を実施。
派遣事業部	老人福祉施設へ留学生のアルバイト紹介を行った。 派遣事業として、留学生に対して、労働に対する基本姿勢等を指導した。 新規派遣先老人保健施設の開拓を行った。

I. 法人の概要

1. 建学の精神

臨床に優れ、かつ豊かな人間性に裏打ちされた医療人を育成する

2. 学校法人の沿革

昭和48年（1973）	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校（大阪市東成区）
昭和52年（1977）	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
昭和57年（1982）	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
昭和60年（1985）	4月	卒後教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊
昭和63年（1988）	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医院と学術研究提携を結ぶ
平成3年（1991）	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ
平成4年（1992）	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成7年（1995）	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士（医療専門課程）の称号を授与
平成8年（1996）	6月	中国江蘇省陰市中医院と交流開始
平成12年（2000）	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年（2001）	1月	森ノ宮医療学園専門学校本校舎増改築工事完成、同校3階に「はりきゅうミュージアム」開設
平成14年（2002）	1月	「はりきゅうミュージアム」にて代田文誌特別展開催
	4月	森ノ宮医療学園専門学校緑橋校舎増設
平成15年（2003）	3月	柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎（第1期）完成
平成16年（2004）	3月	中国江蘇省江陰市中医院と学術・教育協定締結
平成17年（2005）	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
平成19年（2007）	4月	森ノ宮医療大学開学（大阪市住之江区）
平成20年（2008）	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成22年（2010）	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	4月	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪府立急性期・総合医療センターと括連携協定締結
	6月	森ノ宮医療大学メディカフェ（学生食堂）オープン
平成23年（2011）	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 西棟（ウエストポート）竣工 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置
平成24年（2012）	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可
平成25年（2013）	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定

平成26年(2014)	1月	大阪市住之江区と包括連携協定締結
平成26年(2014)	6月	大阪府高槻市教育委員会と包括連携協定締結
平成26年(2014)	11月	大阪府吹田市教育委員会と包括連携協定締結
平成27年(2015)	2月	相愛大学と包括連携協定締結
平成28年(2016)	3月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪社会体育専門学校と包括連携協定締結
平成28年(2016)	4月	森ノ宮医療大学に助産学専攻を開設。保健医療学部臨床検査学科、作業療法学科を開設
平成28年(2016)	5月	森ノ宮医療大学新棟(キャナルポート)竣工、新体育館、新図書館併設
	6月	森ノ宮医療大学講堂(コスモホール)竣工
	9月	森ノ宮医療学園専門学校がフロリダ・カレッジ・オブ・インテグレイティブメディスン(FCIM)と姉妹校提携
	11月	森ノ宮医療大学開設10周年記念式典挙行
	12月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス西側隣接地の校地(大学設置基準上の空地)購入
平成29年(2017)	4月	森ノ宮医療大学 禁煙宣言
	11月	森ノ宮医療学園 京都施術所(ERP 下鴨南治療院)開業
	12月	森ノ宮医療大学 西校地南側を運動施設(グリーンスクエア)に整備
平成30年(2018)	1月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本生命済生会付属日生病院(現:日本生命病院)と相互連携協定締結
	3月	森ノ宮医療大学 オーストラリア、カーティン大学(Curtin University)と連携協定締結
	4月	森ノ宮医療大学大学院保健医療学研究科医療科学専攻(博士後期課程)開設
	7月	森ノ宮医療学園専門学校が大阪市東成区と包括連携協定締結
平成31年(2019)	2月	森ノ宮医療学園ランゲージスクールが大阪府から各種学校として認可される。
平成31年(2019)	4月	森ノ宮医療学園ランゲージスクール開校
令和2年(2020)	2月	森ノ宮医療大学 桜棟校舎竣工
令和2年(2020)	4月	森ノ宮医療大学 保健医療学部放射線学科を開設、大学院保健医療学研究科看護学専攻(修士課程)を設置、開設 森ノ宮医療大学保健医療学部臨床検査学科細胞検査士課程開設
	9月	森ノ宮医療大学 社会医療法人愛仁会と相互連携協定締結
	10月	森ノ宮医療大学 JCHO 大阪みなと中央病院と相互連携協定締結
	11月	森ノ宮医療学園 イカリソース株式会社と包括連携協定締結
	12月	森ノ宮医療大学 JCHO 大阪病院と相互連携協定締結
令和3年(2021)	2月	森ノ宮医療大学 チュニジア Tunis El Manar 大学(チュニスエルマナール大学)と連携協定締結
	6月	森ノ宮医療学園 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社と相互連携協定締結
	8月	森ノ宮医療大学 NTT ドコモレッドハリケーンズ大阪と相互連携協定締結

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号	
設置する学校	学校名	学部・学科名等	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
	森ノ宮医療大学	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 平成23年度
		大学院保健医療学研究科 看護学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 令和2年度
		大学院保健医療学研究科 医療科学専攻（博士後期課程）	3	2	0	4	開設年度 平成30年度
		保健医療学部 鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年度
		保健医療学部 理学療法学科	4	70	0	280	
		保健医療学部 看護学科	4	90	0	360	開設年度 平成23年度
		保健医療学部 臨床検査学科	4	70	0	260	開設年度 平成28年度
		保健医療学部 作業療法学科	4	40	0	160	開設年度 平成28年度
		保健医療学部 臨床工学科	4	60	0	180	開設年度 平成30年度
		保健医療学部 診療放射線学科	4	80	0	80	開設年度 令和2年度
		助産学専攻科	1	10	0	10	開設年度 平成28年度
	森ノ宮医療学園専門学校	医療専門課程鍼灸学科	3	120	0	360	開設年度 昭和48年度
		医療専門課程柔道整復学科	3	90	0	300	開設年度 平成12年度
	森ノ宮医療学園 ランゲージ スクール	日本語学科進学 1年コース	1	20	0	20	開設年度 平成31年度
		日本語学科進学 1年6か月コース	1.5	20	0	40	
		日本語学科進学 2年コース	2	20	0	40	
		介護福祉学科	2	80	0	160	開設年度 令和3年度

4. 施設等の状況

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	32,936.65 m ²	7,193.15 m ² (東棟)	令和元年度に桜棟 (5,422.25 m ²)完成
		603.63 (食堂棟)	
		4,523.74 (西棟)	
		10,939.69 (南棟)	
		30.64 (スポーツ施設管理棟)	
		5,422.25 (桜棟)	
森ノ宮医療大学 計	32,936.65	28,713.10	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,253.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本2丁目5番41号)	1,329.40	1,454.19 (アネックス校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 計	3,420.18	7,644.60	
森ノ宮医療学園ランゲージスクール (大阪市住之江区南港北1丁目28番9号)		673.31 (日本語学科棟)	
		1,070.90 (介護福祉学科棟)	
森ノ宮医療学園ランゲージスクール		1,744.21	
総合計	36,176.83	38,101.91	

(2021年5月1日現在)

5. 役員の概要

(2021 年 4 月 1 日現在)

・定員数：理事 8～14 名、監事 2～4 名 ・現員数：理事 8 名、監事 2 名

役職	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成 22 年 11 月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	青木元邦	平成 27 年 4 月	7-1-1	森ノ宮医療大学学長
理事	尾崎朋文	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	小島賢久	平成 25 年 4 月	7-1-2	
理事	安田実	平成 11 年 5 月	7-1-2	
理事	荻原俊男	平成 23 年 4 月	7-1-3	
理事	松浦成昭	平成 31 年 4 月	7-1-3	
理事	笠山宗正	平成 31 年 4 月	7-1-3	
監事	日根野文三	平成 11 年 5 月		
監事	小林由幸	平成 14 年 10 月		

6. 評議員の概要

(2021 年 4 月 1 日現在)

・定員数 17～29 名 ・現員数：20 名

氏名	寄附行為上の選任区分
山下 仁	25-1-1
鍋田智之	25-1-1
三木屋良輔	25-1-1
松下美穂	25-1-1
吉村弥須子	25-1-1
石塚充弘	25-1-1
房前素徳	25-1-2
浜田 暁	25-1-2
清水尚道	25-1-2

尾崎朋文	25-1-2
河内 明	25-1-3
鈴木 紘	25-1-3
森 優也	25-1-3
小島賢久	25-1-3
葉山直史	25-1-3
鈴木 信	25-1-3
赤丸敏行	25-1-3
安田 実	25-1-3
青木元邦	25-1-3
吉岡敏治	25-1-3

7. 教職員の概要

(2021 年 5 月 1 日現在)

●大学

区分	人数
本務教員	142
本務職員	50

(学校基本調査に基づく)

●専門学校

区分	人数
本務教員	19
本務職員	17

(学校基本調査に基づく)

●森ノ宮医療学園ランゲージスクール

区分	人数
本務教員	11
本務職員	4

●法人本部、その他事業所

区分	人数
本務職員	29

8. その他

●主な加盟団体

1	公益社団法人 私学経営研究会	法	法人本部	学校関係
2	NPO法人 学校経理研究会	法	法人本部	
3	全国専修学校各種学校総連合会	専	事務局	
4	一般社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会	専	事務局	
5	公益財団法人 日本高等教育評価機構	大	総務課	
6	都市圏高等教育懇談会	大	総務課	
7	日本私立大学協会	大	総務課	
8	日本私立大学協会関西支部	大	総務課	
9	西日本私立大学振興協議会	大	企画課	
10	大阪府私立大学連絡会	大	総務課	
11	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	大	教務課	
12	一般財団法人 全国私立大学教職課程協会	大	教務課	
13	阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会	大	教務課	
14	広域大学連携事業	大	教務課	
15	関西地区 FD 連絡協議会	大	企画課	
16	関西学生就職指導研究会	大	学生支援課	
17	実験動物施設協議会	大	事務局	
18	関西生産性本部	大	事務局	
19	学校経営品質向上研究会	大	事務局	

20	日本アロマコーディネーター協会	専	事務局	
21	公益社団法人 東洋療法学校協会	専	鍼灸学科	鍼灸関係
22	公益社団法人 全日本鍼灸学会	大	鍼灸学科	
23	公益社団法人 日本鍼灸師会	大	鍼灸学科	
24	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	大	鍼灸学科	
25	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	大	鍼灸学科	
26	鍼灸学系大学協議会	大	鍼灸学科	
27	一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	理学療法 作業療法 関係
28	一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科 作業療法学科	
29	一般社団法人 日本私立看護系大学協会	大	看護学科	看護関係
30	一般社団法人 日本看護系大学協議会	大	看護学科	
31	公益社団法人 全国助産師教育協議会	大	看護学科 助産学専攻科	
32	一般社団法人 全国保健師教育機関協議会	大	看護学科	
33	公益財団法人大阪府看護協会	大	看護学科	
34	一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会	大	臨床検査学科	臨床検査 関係
35	一般社団法人大阪府臨床工学技士会	大	臨床工学科	臨床工学 関係
36	全国診療放射線技師教育施設協議会	大	診療放射線学科	診療放射線 関係
37	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	専	柔道整復学科	柔道整復 関係
38	公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会	専	柔道整復学科	
39	私立大学図書館協会	大	図書館	図書館 関係
40	日本看護図書館協会	大	図書館	
41	一般社団法人 日本温泉気候物理学会	大	図書館	
42	経絡治療学会	大	図書館	
43	社団法人大阪市防火管理協会	専	事務局	広報関係 地域関連
44	東成防火協力会	専	事務局	
45	東成防犯協会	専	事務局	
46	中本連合中本第一町会	専	事務局	
47	中本社会福祉協議会	専	事務局	
48	コスモスクエア地区開発協議会	大	学長室	
49	大阪商工会議所	大	事務局	
50	公益社団法人 日本医師会	法	附属診療所	診療所 関係
51	一般社団法人 大阪府医師会	法	附属診療所	
52	一般社団法人 東成区医師会	法	附属診療所	
53	一般社団法人全国日本語学校連合会	WLS	事務局	日本語教育 関係

●主な連携先

締結年月日	連携先機関等（現在の名称）	連携の種類	備考
H22. 4. 6	地方独立行政法人大阪病院機構 大阪急性期・総合医療センター	相互連携	2017/4/1 大阪府立急性期・総合医療センターから改称
H23. 7. 11	医療法人協和会 千里中央病院	相互連携	
H23. 12. 9	医療法人錦秀会	相互連携	
H25. 5. 27	公益財団法人田附興風会医学研究所 北野病院	相互連携	
H26. 1. 9	大阪府住之江区	包括連携	
H26. 1. 15	医療法人協和会	相互連携	
H26. 6. 3	高槻市教育委員会	連携協定	
H26. 11. 19	医療法人社団有隣会 東大阪病院	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H26. 11. 25	吹田市教育委員会	連携協定	
H27. 2. 19	学校法人相愛学園 相愛大学	包括連携	
H27. 3. 9	社会医療法人景岳会 南大阪病院	相互連携	
H27. 4. 15	大阪市教育委員会	※	※ボランティアについての協定
H27. 7. 27	守口市教育委員会	連携協定	
H28. 1. 29	社会福祉法人帝塚山福祉会	相互連携	
H28. 6. 13	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	相互連携	2017/4/1 大阪府立成人病センターから改称
H28. 8. 22	学校法人常翔学園	※	※スタッフディベロップメントにおける大学間連携
H29. 2. 24	社会医療法人純幸会 関西メディカル病院	相互連携	
H29. 10. 5	株式会社かなえるリンク	相互連携	森ノ宮医療大学保健医療学部との連携
H30. 1. 18	放送大学	単位互換	
H30. 1. 26	公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院	相互連携	2018/4/30 日生病院から改称
H30. 4. 19	ミズノ株式会社	包括連携	高等学校への活動支援、地域への社会貢献活動 等
H30. 11. 1	近畿大学病院	相互連携	
H30. 12. 3	大阪重粒子センター	相互連携	
R2. 9. 7	社会医療法人愛仁会	相互連携	大学院看護学専攻 NP コース開設に向けての協力
R2. 10. 5	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪みなと中央病院	相互連携	学生の救急時の受入
R2. 11. 30	イカリソース株式会社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園としての連携
R2. 12. 21	独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院	相互連携	

R3. 6. 7	西日本旅客鉄道株式会社近畿統括 本部大阪支社	相互連携	学校法人森ノ宮医療学園と しての連携 大阪環状線 60 周年を契機 とした鉄道事業を通じた協 力
R3. 8. 23	NTT ドコモレッドハリケーンズ大 阪	相互連携	BIODEX 利用を通じた学術デ ータ提供、地域活性化

Ⅱ. 実施事業と成果

1. 森ノ宮医療大学

【サマリー】

大学の質を高め、ブランディングを構築し、在校生・保護者・教職員・地域等、様々なステークホルダーの満足度を高めるべく、教育/研究事業のさらなる発展施策に取り組み、さらに地域に根付く医療系大学として、社会連携事業・地域貢献事業を積極的に展開した。教職員が協働し、学部再編・新学科設置/新校舎建築準備・クリニック新設準備・教育プログラムのブラッシュアップ・インクルーシブ医科学研究所の稼働・企業連携事業・職域接種等を展開した。

(1) 実施事業の概要

① 教育研究機関としてのブランディング強化

量的拡大から質的向上への転換を意識しつつ、医療系総合大学としての認知度向上・ブランディング構築を模索した。

「教育」

教育面での質向上を目指して、①学部再編、②大学院保健医療学研究科看護学専攻新設に取り組み、予定通り令和4年度から3学部体制（看護学部・総合リハビリテーション学部・医療技術学部）に移行し、また看護学専攻（博士前期課程/NPコース）開設に至った。学部再編による教育力向上とそれを基盤とする新たな打ち出し戦略を目指し、新学部でのミニ IPE（カリキュラム外アドバンスコース制（仮称）の導入・学科乗り上げカリキュラムなど）や学部一体型外部発信（OC・HP等）の施策を検討するため、総合リハビリテーション学部・医療技術学部にワーキンググループを設置した。また、本学の医学教育の根幹である IPE カリキュラムに関しては、令和2年度より配置された新カリキュラムを継続して実施し、特に今年度はチーム医療病院見学動画を日本生命病院と協働して作成した。

さらに、総合リハビリテーション学部の質向上とリハビリ分野の競争力アップを目指し、言語聴覚（ST）学科設置を決定し、学科設置・新校舎建築の準備を進めた。学科長候補の選定・建築業者選定を実施した。

「研究」

研究面では、令和2年度に設置したインクルーシブ医科学研究所を機能的に稼働させ、全学的な戦略的研究プロジェクトをチーム研究体制で取り組む体制を継続し、科研費獲得と学術論文発信を加速させた。また各学科での研究推進意欲の高まりもあり、科研獲得件数は全国私立大学で207位と大幅にランクアップした。

「社会連携」

地域に根付く医療系総合大学として、様々な社会連携事業を積極的に展開した。

- ・ 令和3年6月28日～10月1日の期間で約6900名を対象に新型コロナワクチン職域接種を実施した。本学の学生、教職員だけでなく、咲洲地区に所在する企業・団体や一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会に加盟する学校の学生や教職員を含む計52団体を対象とした。また職域接種の記録動画「職域接種 story movie」をYouTubeで公開した。
- ・ 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社と相互連携協定を締結し、急病患者対応動画を監修し連携して作成した。環状線ホーム等で放映予定。
- ・ NTTドコモレッドハリケーンズ大阪と相互連携協定を締結した。
- ・ 既に相互連携協定を締結しているミズノと、マルチスポーツ推進の実証研究を展開した。さらにミズノ主催の国際学会協力の準備を始めた。

「大学附属クリニック新設」

医療を通じた地域貢献をさらに加速させ、同時に教育・研究水準の向上、学生の健康管理一元化推進、教職員の健康増進を図るべく、大学附属クリニック新設準備を進めた。令和4年11月の開院を目指し、大学敷地内に院外薬局を誘致しクリニック建築に着手した。

② 感染症対策

健康管理センターを中心として安全な大学運営に努めた。社会状況を加味しつつ感染対策ルールを適宜アレンジし、また対面授業とオンライン授業のハイブリッドカリキュラムを感染状況に合わせて展開することで、安全と教育の両立を確保した。

③ 募集戦略と入試制度改革

2021年度の学生募集活動は、前年度同様に本学の特徴である「チーム医療教育」、そして「医療系総合大学としてのさらなる進化」として学部再編（3学部化）や看護教育・研究の拡充、附属クリニックの開院等を前面に打ち出した広報展開で、ブランディング強化を図った。入試制度改革では、入試問題において、いわゆる新傾向の問題を取り入れる等、出題傾向の一部変更を行った。また、2023年度入試に向けて、現在の入試制度の検証と見直しを図り、新たな入試制度を導入することを決定した。なお、2022年度入試（2021年度実施入試）は、多くの大学で志願者数が減少に転ずる中、本学は2年連続で過去最大の志願者数を更新する5,687名の受験者を確保することが出来た。

④ 入試精度の向上

入試の質と精度を高めるため、2020年度に設置した入試課を中心に新たに入試作問・校正・実施方法等について、従来方法の問題点を抽出し、適切に改変した。また、アドミッションセンターを改組し新たに入試運営センターを設置する準備を進めた。令和4年度からは入学広報センター・入試運営センター（下部組織として作問校正部会を配置）を配置予定であり、効果的な人員配置を実施した。

⑤ 学生支援サービスの強化

コロナ禍における学生への感染防止を最優先し、国の要請に鑑みながら、オンライン授業と対面授業を併用しつつ、学生の学修環境確保に努めた。さらに、オンライン授業授業充実のため、学内に新たに動画撮影用のスタジオを設置するとともに、学務システムに新MORIPAを導入し、新機能を利用した新たなオンライン授業を実施した。これらの対応策が奏功し、授業の大幅な遅れもなく、授業と学修環境の質を担保することができた。

また、就職については、昨年度に続き就職説明会の対面での開催が困難になったが、キャリアタスCMSシステムを導入し、オンラインによる開催をスムーズに進めた。また、低学年を対象とした企業による勉強会なども実施した。一方、医療業界でも選考試験に組み入れられているSPI適性検査について、受験会や対策講座を企画、実施するなどした。

学生からの生活、進路、履修、学修等、様々な相談に対応できるよう、学生専用のメール相談窓口については継続した。学生からの学費に関する相談について、特に国の修学支援制度の利用希望者ならびに利用者数が増加していることから、在校生・保護者を対象とした個別相談会を実施し、周知案内や手続きを滞りなく進めた。

森ノ宮医療学園校友会や森ノ宮医療大学教育後援会からの支援を受け、就職支援をはじめ就学支援や学費への支援体制の充実を図ることが出来た。

⑥ 各部署の取り組み

【看護学科】

看護学科において取り組んだ主な事業は、教育の質の向上・教育内容の充実、国家試験対策の強化、教員の研究力向上、大学院看護学専攻の定員確保であった。

教育の質の向上・教育内容の充実については、日本看護学教育評価機構（JABNE）の受審に向けて自己点検・評価報告書を作成し、WEB 実地調査を受けた。総合評価の結果は適合であった。自己点検・評価を行うことにより、看護学科の教育課程の評価ができ、看護学科の強みを再認識できた。今後は改善策を検討することにより、看護学部教育の質向上につながると考える。また文部科学省の大学改革推進等補助金（ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業）に応募し選定された。看護学科において、早期に教育・実習体制を構築するための医療用シミュレーター、DX（デジタルトランスフォーメーション）設備等を活用することにより、ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる看護職者の養成に資することができると考える。

国家試験対策については、チューターが中心となって担当学生の指導に当たった。模擬試験の成績下位の学生には個別指導を強化した。看護師国家試験・保健師国家試験ともに 100%の合格であった。

教員の研究力向上については、看護学科研究支援委員会の企画により、教員の研究に関するニーズに応え、FD 研修会を 5 回開催した。今後は論文投稿による実績を積んでいく必要がある。

大学院看護学専攻の定員確保については、2022 年度からの看護学専攻博士後期課程に 2 名、博士前期課程 NP コースに 6 名の入学者が確保できた。今後は博士前期課程修士論文コースの受験者確保に向けて、教員全体および広報課とともに積極的に募集活動を行う必要がある。

（学科長：吉村）

【理学療法学科】

2021 年度の国家試験において現役生は 98.4%の合格を達成した。昨年度は 96.7%であったため、改善はしたが 100%の目標に到達しなかった。早期からの対策システムを構築してきたが、成績不良者の底上げを強固にするための教育指導・システムを再構築し開始している。

2021 年度の 12 期生の 4 年間卒業率については 85.7%となり、昨年度の 81.4%よりも改善し、目標とした 95%を達成できなかったものの、80%以上は、全国の大学平均 73.1%（平成 29 年全国 4 年生 PT 大学データ）と比較しても高水準だと考える。また 4 年ライセンス取得率も 85.7%（全国 65.3%：同データ）で本学科では 9 期生以来過去最高であった。第一志望就職率は 67.2%と昨年度の 73.2%よりも低下した。

学生満足度調査において、在校生推奨度は前年 60.6%より改善し 68.5%であったが目標の 75%には届かなかった。

アドミッションにおいては、一定数の高校出張講義を実施し、限られた仕組みながらオープンキャンパスでの模擬講義も実施し、学科志望者数はほぼ昨年ベースを維持できた。

臨床マインドを高める教育として、コロナ禍で前半は対面授業の減少もあったが後半は 2 クラスに分け感染リスクを予防しながら対面での実技授業を概ね円滑に進めることができた。OSCE をブラッシュアップしながら実施し、実習前後教育の質を向上して臨床教育の充実を図ることができた。結果、臨床実習での不合格者は出なかった。

また学外実習指導者を養成するための指導者講習会を WEB を利用し開催できた。

学科独自色の追求として、新学部開始にあたっての広報動画作成、コース制などの新カリキュラム検討、教職などのワーキンググループを作業療法学科と協調し開始することができた。

科研の新規採択は 1 件、継続 5 件であり、また論文本数は 13 本であった。卒後教育センターと協同し、2022 年度の森ノ宮医療大学学術大会の準備を開始した。

(学科長：三木屋)

【作業療法学科】

2021年度の学科の主な取り組みは、国家試験対策の維持・強化ときめ細やかな学生教育・学習支援である。

2021年度の第57回国家試験は昨年度に引き続き2年連続で100%合格を達成できた。2021年度は国家試験対策委員会を立ち上げて、定期的に国家試験対策の状況を共有するとともに、3年後期の春休み期間中から開始する国家試験短期集中講座（国試塾）やアクティブラーニングを中心としたグループワークによる基礎学力の向上、あるいは各種業者模試の導入と適宜実施する学生への個別指導、国家試験直前の集中対策講座や教員とのペア学習など、これまで2年間積みあげてきたメソッドを更に効率的に進めてきた結果が100%合格という結果に繋がったものと思われる。近畿圏内の大学・専門学校で2年連続100%は本学のみであり（全国でも3校のみ）非常に高水準であることが伺える。

就職に関しては、キャリアセンターとの連携および教員の就職指導により、就職率100%を達成し、第1希望就職率86.4%、臨床実習施設への就職率は86.4%とかなり高確率で第1希望および実習施設への就職ができています。

きめ細やかな学習支援としては、i)入学前教育（コロナ禍のため課題のみ）、ii)1年次からの基礎医学補講（担任担当）、iii)4年間継続した模試の実施（3科目模試・国試過去問）、iv)当事者ゲストスピーカー参加型授業、v)実習前や授業内において客観的臨床能力試験（objective structured clinical examination：OSCE）の導入・ルーブリック評価の実施、vi)臨床実習（CCS方式）・コロナ感染拡大に伴う学内実習の実施・臨床実習指導者研修・オンラインSV会議&研修、vii)校友会主催の卒後教育研修実施（オンライン）・森ノ宮医療大学学術大会における卒業生対象の研修会実施、viii)実習・社会貢献・研究支援などに関して、ワーキンググループなども立ち上げ、積極的に行った。授業においては、オンラインやオンデマンド配信に対する取り組みを通して、学生への不利益が生じないよう、教育の質を担保すべく、Teams/Zoom/MORIPAを活用し、教員一丸となって取り組んだ。演習や実習では感染対策を十分配慮し、三密を避け、健康管理表チェックなど確認を行った。

アドミッションにおいては、可能な限り高校出張講義を実施し、オープンキャンパスでの模擬講義も毎回テーマを工夫したり国家試験合格者を前面にアピールするなどの工夫を行い、学科志願者数は昨年の87名から111名（延べ人数）と大きな増加に繋がった。

(学科長：松下)

【臨床検査学科】

2021年度の臨床検査学科は、①国家試験合格率の向上、②医療人に適した学生の確保、③3年次国家試験対策の充実を重要課題としてきた。

①国家試験合格率の向上

国家試験対策としては、チューター業務を見直し、きめ細かい国家試験対策スケジュールを行い、システム化された国家試験対策の構築を目指してきた。しかしながら、2021年度国家試験合格率は全国平均と同様に5%低下、合格率100%に遠く及ばない結果となった。2022年度は学科教員も増員され、学生の学力に応じた指導の強化、1年次から国家試験を見据えた授業を行い、国家試験合格率の向上を目指したい。特に、4年次後半は学生を少人数グループに分けた小グループ指導で苦手領域の克服に努めたい。

②医療人に適した学生の確保

在学中にさらなる知識の向上と専門職資格を習得できる細胞検査士資格取得コースが2年目になった。今年度は講師の確保、学内実習に必要な体制作りを行い、2022年からの授業の準備が整った。また、減少していた志望者総数は2020年度580名（第一志望298

名) から 2021 年度 909 名 (第一志望 502 名) に増加した。今後は、医療技術学部として診療放射線学科、臨床工学科と連携を取り、広報部の協力のもとに医療技術部の認知度向上、臨床検査の必要性をアピールし、より学力の高い学生の獲得を目指す。

③臨地実習施設と就職の確保

臨地実習受け入れ施設は 58 医療機関で関西一の実習施設と提携している、その 4 割は地域医療の中核を担う 500 床以上の基幹病院となっている。学生には先端医療を経験、臨床検査技師としての専門的知識・技能を深め、実践能力を培うことができる環境を整えている。就職に関しても学生支援課と協働し、2021 年度国家試験合格者の医療機関就職率は 98% と高い結果になった。

(学科長：脇)

【臨床工学科】

臨床工学科では、2021 年度「国家試験合格率 100%」、「4 年卒業率 95%以上」を目指し、①知的能力の向上による人間力の向上、②学習習慣の確立と日常の自己管理、③ティーチングメソッドの開発、④学生確保の取組、⑤教員の研究活動と研修の充実といった 5 つの課題を設定した。

2021 年度前期は緊急事態宣言に伴い新型コロナへの対応として講義動画の作成に追われたが、結果として、学生が国家試験対策として自主的に学習に活用できる教育用コンテンツとしての講義動画を科内教員の取組の結果として充実させることができた。更に、「国家試験合格率 100%」の達成のために、講義動画だけに留まらず、国家試験問題の解説動画といった、より国家試験対策に直結する動画を作成することが可能となったので、ノートパソコンのみならず、スマートフォンを活用したコンテンツの作成を行い、学生の知識レベルを高めたいと考えている。

2021 年度後期からは、学生の学習習慣の確立と日常の自己管理として、4 年生を対象に模擬試験の結果によるレベル分けを実施し、レベル毎に教員を配置し、学習方法及び学習時間の記録指導を開始した。これにより学生個々の学習習慣の確立と日常の自己管理の改善が可能となったので、この取り組みを推進し、国家試験ワーキンググループによる更なるバージョンアップも同時に達成できた。

学生確保の取組については、コロナ渦によりサマースクールといった従来から実施してきたイベントは中止・延期となったが、図らずとも、新型コロナの感染患者への治療において臨床工学技士への注目度が高まってきたので、広報課と協同し、本学科の周知を図りたいと考えている。「国家試験合格率 100%」を達成するために、学生個々の知的能力の要素を高めることに注力したいと考えている。

2021 年度、国家試験合格率は 98% (全国平均：80.5%)、就職率は 86% (国家試験合格者就職率は 96%) と高い結果であった。

(学科長：加納)

【診療放射線学科】

診療放射線学科は開設 2 年目で、1 年生、2 年生ともに担任・チューターによる面談と個別指導を重ねている。また「学科だより」を年 2 回発行するとともに「保護者懇談会」を通して保護者と連携を深めた。

授業の理解を深めるために、時間割の空きコマの時間帯を利用して学力向上に向けた「ステップアップセミナー」を実施している。1 年生には、放射線に関連する専門基礎科目、2 年生はこれからの専門科目で必要となる「画像解剖学」の基礎となる知識を中心にプログラムを作成し実施した。

国家試験に向け、1 年生には「基礎医学大要のドリル」を、2 年生には「3 月・9 月の学内模試の見直しノート」を作成した後、解説講義を行うことで国家試験科目に対する学修成果の把握・可視化に取り組んでいる。さらに年度末にはこれまでに開講した講義の範囲内で問題を作成し、国家試験と同様の運営による「学内模擬試験」を実施することで国家試験に対する意識を高めている。

学生同士が切磋琢磨することによる学習意欲の向上とチーム学習の推進をはかるため、国家資格である「第1種放射線取扱主任者」の資格取得をサポートしている。学生達が、自分が解いてきた問題をゼミ生自らが全体にレクチャーして、教員からのアドバイスを受ける手法を繰り返す事で、社会人でも超難関な試験に2年生2名の合格者を出すことが出来た。2022年度の合格者倍増を目指し、1年生を加えサポートを継続中である。

研究活動の推進のため、学科内研修会を定期的（通算15回）に開催し、学科内連携、他学科連携及び他施設連携を視野に研究体制と環境の整備、および課題の創出に取り組んでいる。

教育内容の充実とティーチングスキル向上のため、シラバスやルーブリックの情報共有、Web講義の理解を高める教育コンテンツや教材の作成及び活用法の情報収集、学内実習の内容・構成の検討と環境整備、さらに2022年度から始まる臨床実習と卒業研究の準備を行っている。

「森ノ宮医療大学保健医療学部診療放射線学科」および「診療放射線技師」の知名度向上と志願者増加を目指し、教員の研究テーマ・これまでの業績・学会活動等の発信している。また、本学のHP等で学科の実習設備・器を積極的に発信したことで、外部企業からの実習施設利用が3件(1件はコロナの影響で中止)、および学会の認定試験による教室利用が1件あった。

(学科長：小縣)

【鍼灸学科】

学生募集の結果、2022年度新入生は70名（第一志望者67名）となり入学定員を満たすことができた。オープンキャンパス担当教員が工夫を凝らした結果、入学者の女性の占める割合が昨年より増加しており（2021年度：女子22名・男性37名、2022年度：女子32名・男性38名）、その点も入学定員を満たした要因であり、今後も学科全教員の力を集結して募集力を強化したい。一方、指定校推薦入試で24名、そしてスポーツ実績型入試で13名の入学者を確保しており、学科の偏差値を向上させるためには、一般入試での志願者（競争率）の増加も必要である。

国家試験の現役合格状況は、はり師・きゅう師ともに45/47名（95.7%）で全国平均（はり師：大学90.6% 全国90.3% きゅう師：大学91.3% 全国91.4%）を上回った。国家試験対策委員の日頃の努力の結果、目標の100%達成に近づいている。しかしながら、4年在籍者全員が受験に導いていないこと、既卒者の合格率向上は学科として急務であり、学修支援センターとも協力し改善したい。2021度末時点での単位修得率は82.1%（1年生43/56 76.8% 2年生56/64 87.5% 3年49/57 86% 4年生55/66 83.3%）であった。2021年9月末～2022年3月末の卒業生の就職率は81.5%（44/54）であった。都道府県の教員採用試験に既卒生3名が合格した（すべて大阪府中学校：支援学級）。教員採用試験に合格した学生の全てが、在学中に課外活動を熱心に取り組んでいた。今後は、合格者を増やすこと、そして現役合格者の排出できるように取り組んでいきたい。

学科教員査読付き論文は和文12編、英文3編で、筆頭著者は8名であった。今後も、他学科・学部とも連携し、さらに研究活動を活性化したい。

(学科長：中原)

【大学院保健医療学研究科】

1) 学生募集

2022年度入試において保健医療学専攻修士課程4名、医療科学専攻博士後期課程2名、看護学専攻博士前期課程NPコース6名、看護学専攻博士後期課程2名の入学予定者を確保した。また、看護学専攻修士課程1年の1名が退学した。これにより2022年度の在籍院生は保健医療学専攻修士課程14名、医療科学専攻博士後期課程6名、看護学専攻博士前期課程8名、看護学専攻博士後期課程2名となる予定。

2) 授業関連

COVID-19 感染拡大の継続によりオンライン授業が中心となった。一部の院生に学位論文のための研究指導が遅延したが、指導教員による個別の対応により結果的にはおおむね予定通りの授業と研究指導が遂行できた。

3) 学位授与

保健医療学専攻において6名の修士(保健医療学)、医療科学専攻において2名の博士(医療科学)、看護学専攻において2名の修士(看護学)の学位を授与した。

4) 看護学専攻博士後期課程および看護学専攻博士前期課程 NP コースの設置準備

看護学専攻博士後期課程については2021年4月に届出、6月に文科省より認める旨の通知あり、予定通り2022年度からの学生受け入れ体制が整った。NPコースについては経営企画課、教務室、愛仁会ほかの協働によりの設置準備が順調に進み、組織、カリキュラム、高槻キャンパス設置などが2022年度入学までに整備された。

5) 学術セミナーの開催

月1回の開催予定であったがCOVID-19 ワクチン職域接種活動に伴い5~7月のセミナーを休止し、年度内に第104~111回、計8回開催した。講師は8回とも本学教員であり、第104回は荻原名誉学長講演、第107回は青木新学長講演とした。

(研究科長：山下)

【助産学専攻科】

2021年度においては、事業目標を1) コロナ禍での助産教育の質の担保、が重要課題であり、2) 内部受験生の質の向上、3) 一般入試受験生の受験率のアップ、による専攻科学生の質の向上を挙げた。さらに4) 国家試験対策の強化、5) 教育備品の充実、6) 教員の増員を掲げた。

1) コロナ禍での助産教育の質の担保においては、感染予防に留意し、学校にも配慮していただき、可能な範囲で対面での講義や演習を行うことができた。コロナ感染拡大で分娩介助実習を断られた施設、もしくは実習時間制限された中で、個人クリニックのおかげである程度の介助数が達成できたと言っても過言でなかった。しかし、助産ケアに関してはどうしても妊産褥婦と接する時間が短く、実習経験の不足から卒業時の到達目標には届いていないのが現状である。次年度も分娩介助や助産ケアができる新規施設の開拓が必要と考えている。

2) の内部受験生の質の向上に関しては、2021年度から初めて入試基準を設け、内部進学生看護在学中の成績基準をGPA3.0にし、結果6名が合格した。3) の外部の受験生についても4倍の受験率を達成できた。一般入試の合格者のその大学でのGPAが3.0前後であった。しかし、当大学のGPAは、最高点が他大学の4.0と異なり5.0であるため、やはり、3.0近くの内部学生は外部学生と学力差が大きく、本人が途中でしんどくなるのかと考えられる。教員もわかっているので人一倍、目をかけ、手をかけるが、2021年度も入学後間もない5月に内部学生に退学が出てしまった。教員も今後の対策をさらに検討するとともに、2022年度の内部進学者はGPA 3.3以上となったため、その成果が学生の質の向上につながると期待したい。

4) については全員が国家試験に合格し、これで開設時からずっと100%の合格率を維持できているが、合格は専攻科の使命でもあるので今後も引き続き、チューターによる個別のかかわりを実施し、強化に努める。

5) 教育備品の充実については、上層部の配慮のもと、備品の整備が年度ごとになされ、充実に向けて進んでいる。コロナ禍で卒業時の到達度を達成するためには学内の演習で教育効果を上げることが重要であり、リアルモデル等の設備も必要であり、シュミレーション教育が必須である。毎年機器等の整備をお願いしているところである。

6) の教員の増員は、実習に同時に多施設に行くことから、前年度から要望していたが、2022年度から、ようやく体制が整った。今後も卒業生が、森ノ宮医療大学助産学専攻科を出たことを誇れるようにブランディングに努めるとともに、優秀な助産師の排出を目指し教員も教育の質を上げるべく努力していく所存である。

【研究支援センター】

本学の研究支援体制のさらなる充実を目指し、新たに下記の事業に取り組んだ。

・科研費等外部資金獲得支援について

科研費等の外部資金獲得支援として、ロバストジャパン株式会社が提供する動画講座システムの配信を行った。1 単元 5 分～20 分程度の短い動画を 50 本ほど視聴し、科研費等の外部資金応募に向けて、研究の全体計画から申請書作成までに必要な知識や考え方、表現方法等が解説されるものであり、希望する若手研究者等を優先的に対象とした。

・学長奨励研究プロジェクトによる支援の強化

2021 年度までは学長奨励研究プロジェクトとして現在の学長奨励研究費（研究基盤構築型）のみの支援を実施していたが、2022 年度より学長奨励研究プロジェクトによる支援体制の強化のため、研究基盤構築型と発展的研究体制構築型の 2 つの種別により支援するための体制整備を行い、学内に向けて公募した。

これにより、研究者個人または効率的なチーム研究体制や学科横断・領域横断的な共同研究による研究活動を「学長奨励研究費」の配分により支援することで、若手研究者育成や全学的な研究力の向上、様々な分野の研究者の協働による新たなかつ相乗的な知の醸成を図ることを目的としている。

・研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）への対応

文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」が令和 3 年 2 月 1 日付で改正されたことに伴い、本学において防止計画推進部会、研究支援センター、内部監査室と連携の上、適正に対応した。学長による不正根絶に向けた強い決意表明・教職員への協力要請をもとに「森ノ宮医療大学における競争的資金等の不正使用防止に関する基本方針」を見直し、監事や大学経営・質保証会議による役員の意見を適切に反映させ、研究費不正防止計画や関連規程等の改定を行った。また、今回のガイドライン改正の 3 本柱の 1 つである「教職員の意識改革」においては、新たに役員・教職員等に対する 4 半期毎の啓発活動の実施が求められ、啓発ポスターの掲示や、大学経営・質保証会議（役員・事務局管理職対象）での不正事案の共有等を行った。また 2022 年 1 月を研究費コンプライアンス強化月間と定め、学内グループウェア（デスクネッツ）により他大学の不正事案や科研費の適正な使用に関する注意事項等を毎週配信することで、教職員の意識改革を目指した。

・ひらめき☆ときめきサイエンスの実施における事務的支援

科研費 ひらめき☆ときめきサイエンスが本学で初めて採択されたことに伴い、研究者および各部署（総務課・広報課）と連携し、参加者募集・広報（応募者多数のため抽選対応）、参加者への連絡・調整、事前準備や当日対応、日本学術振興会への提出書類の支援等を行った。

また、学長推進研究支援事業としては、下記取り組みを継続して行った。

・学長推進研究支援事業 科研費 研究計画調書 閲覧制度による支援

科研費における研究計画調書の作成において有効な情報提供を行うことにより、応募の支援、促進、採択件数の増加を目指すため、研究計画調書の開示を行い希望者が閲覧できるようにした。

・学長賞（優秀論文賞）による表彰

研究活動の促進、研究発表論文投稿の奨励、ならびに優れた論文を広く社会に公表することで本学の学術研究の振興を図ることを目的として、優秀論文発表者に対して

学長賞（優秀論文賞）を授与する制度を設けている。受賞者については学内のみならず本学ホームページにおいても公表し、本学研究者の研究意欲の向上を目指している。森ノ宮医療大学 第5回 学長賞については下記研究者に対し表彰した。

森ノ宮医療大学 第5回 学長賞

関口 敏彰 准教授（看護学科）

Sekiguchi T, Kabayama M, Ryuno H, Tanaka K, Kiyoshige E, Akagi Y, Godai K, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Yasumoto S, Masui Y, Ikebe K, Gondo Y, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K. Association between Protein Intake and Changes in Renal Function among Japanese Community-Dwelling Older People: The SONIC Study. *Geriatrics & Gerontology International*. 2022. doi: 10.1111/ggi.14355.

- ・学長推進研究支援事業「学長奨励研究プロジェクト」による支援

「学長奨励研究プロジェクト」（2022年度より前述のとおり「学長奨励研究費（研究基盤構築型）」に変更）は、科研費（若手研究・基盤研究種目）において残念ながら採択には至らなかったものの、審査の結果支援すべき研究課題であると判断された場合に、学長奨励研究費を配分することで支援を行うものである。2021年度は下記研究者へ贈呈した。

学長奨励研究プロジェクト

兼田 敏克 講師（作業療法学科）

テーマ：高齢者の IADL 能力変化を捉える評価尺度の開発

- ・研究員等への科研費応募資格（特定応募資格）の付与

本学の優秀な研究員等に対して一定の条件のもと科研費応募資格（特定応募資格）を付与することで、本学の科研費への応募促進ならびに獲得件数の増加に繋げることを目的する制度を設けている。本制度を利用して優秀な研究員等より申請があり、審査を経て応募資格の付与を行った。また、2022年度科研費（2021年度秋公募）へ応募した研究員1名については、審査結果通知により採択を受け取った。

- ・インクルーシブ医科学研究所の運営に関する支援

セミナーの開催やインクルーシブ医科学研究所の会議等の事務的支援を行った。

さらに、その他の支援体制については下記のとおりである。

- ・文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」ならびに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に準拠した研究機関としての体制の維持・構築
- ・APRIN e-learning システムを利用した研究倫理教育の実施（研究不正の防止）
- ・研究費コンプライアンス研修会による倫理教育の実施（研究費不正の防止）
- ・内部資金研究費の研究実態に応じた適正配分による効率的な研究推進・研究活動支援
- ・科研費等外部資金研究費の応募・申請支援（研究計画調書の事務的確認・支援、その他応募支援）
- ・学術リポジトリ（web）上での「森ノ宮医療大学 紀要」の発刊

（センター長：森谷）

【インクルーシブ医科学研究所】

設立2年目となり、1年目から取り組んできた科研費獲得および、研究論文数の増加が結実し始めた。具体的には2021年には36件の英語論文が掲載され、2021年度の新

規科研費獲得数は11件であった。いずれも過去最多となっており、本学第2期中期経営計画の中核施策の一つである「研究の森」づくりプロジェクトとしての位置づけとしてのスタートをきったと言える。

学内周知の一つとして、通称とロゴマークの公募を行った。通称8件、ロゴマーク15件の応募があり、通称『MINCL(ミンクル)』に決定した。さらに、学外への本学の研究成果を発信するために、ホームページの作成を行った。これらにより、学内と学外への情報発信の基盤を構築した。

次に、発信する研究成果のピックアップおよび学内研究者間のコラボレーションと研究推進を目的に研究所セミナーを実施し、具体的な成果を上げている研究者から成果報告の場を形成した。今後は大学院学術セミナーと共催することで受講しやすさを改善する。

(研究所長：工藤)

【健康管理センター】

本学の学生、教職員だけでなく、咲洲地区に所在する企業・団体や一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会に加盟する学校の学生や教職員を含む、約6900名を対象に新型コロナワクチン職域接種を実施した。新型コロナ感染症対策は、社会状況を加味しつつ適宜アレンジすることで、学内でクラスターを発生することなく、安全と教育の両立を確保した。また、臨地実習において必要時はPCR検査を行い、予防接種指導や健康診断など、コロナ禍においても臨地実習の書類提出に支障が出ないように対応した。

健康増進関連事項：

- ・ 禁煙宣言の遂行（敷地内および近隣の全面禁煙・違反者に対するマナー指導と禁煙サポート・入学時に誓約書の提出）
- ・ 携帯用血圧計購入(救急対応用)

健康管理関連事項：

- ・ 効率的な健康診断実施のための学校保健法に準じた検査項目見直しと経費削減
- ・ 新型コロナ感染症予防対策の実施（感染者数のリアルタイムでの把握とアナウンス、学科・教務室との密な連携による感染症発症者の抽出・確認・帰宅フローの構築、学生相談受付、登校制限・解除基準の策定、非接触型体温計の購入・アルコール手指消毒液設置の拡大、学生全員にマスクの配布、唾液PCR検査の導入と実施）
- ・ 新型コロナワクチン接種（職域接種）運営
- ・ 医務室業務の充実
- ・ みどりの風クリニックとの連携フロー策定
- ・ 外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による医療サービスの拡充
- ・ Will申請業務の速やかな実施

臨地実習関連事項：

- ・ 臨地実習における実習前健康診断関連業務の一元化
- ・ 感染症予防対策に関する全学ルールの統一（日本環境感染学会ガイドラインに準じた抗体価測定・B型肝炎ワクチン・小児感染症ワクチン接種ルール）と、それに準じた抗体検査～ワクチン接種統一フローの確立および臨地実習機関提出統一フォーマットの作成
- ・ 必要時PCR検査施行

メンタルヘルスケア：

- ・ 心理カウンセラー、看護師などによるカウンセリングの実施
- ・ 外部のカウンセリングシステム（T-PEC）導入による匿名相談窓口の拡充
- ・ 外部のハラスメント相談サービス（T-PEC）導入準備（2020年4月開始）

- ・ MOR I カフェ会開催、医務室放課後開放など何でも相談しやすい環境づくり
- ・ 休学者支援

(センター長：前川)

【学修支援センター】

学修支援センターは、本学学修支援体制のさらなる充実を目指し、新たに下記の事業に取り組んだ。

- ・ 入学時プレイスメントテストの実施

教務課との共同事業として新入学生に対してのプレイスメントテストを開始した。入試形態が多様化している現状において、学科横断的に全学生の学力を把握することで効果的な学修支援施策を検討することが可能となった。

- ・ SPI 対策講座の実施

学生支援課との共同事業として、全学年対応の SPI 対策講座を開始した。就業意識を早期から涵養することによる学業意欲の向上、SPI 試験に含まれる非言語能力の早期トレーニングによる学修成果向上を目指す。

- ・ オンデマンドコンテンツ配信 (YouTube, Stream) の運営

センター員ならびに共通教育センター所属教員によるコンテンツ作成協力を得て、YouTube チャンネル (manebel チャンネル)、Microsoft Stream (manabel stream) の運用を開始した。リメディアル教育、基礎医学教育に資するコンテンツをオンデマンドで配信することにより、学生自身による学び直しをサポートすることが可能となった。

また、従来から実施されている以下の施策を継続し、入学から国家試験合格、卒業までの一貫した学修支援を行った。

入学前学修支援：

- ・ 入学前学修コンテンツの提供

在学生学修支援：

- ・ リメディアル科目の学修支援講座（＝ステップアップ講座）開講
- ・ 基礎医学科目の学修支援講座（＝ステップアップ講座）開講
- ・ 専門科目の学修支援講座（＝ステップアップ講座）開講
- ・ 卒業生を登用したメンター制度（＝センターアシスタント）の運営
- ・ 関連資格取得サポート

今年度同サポートによる対策講座受講者から医療情報技師能力検定試験で全科目合格 3 名、科目合格 3 名を輩出した。

- ・ 国家試験対策サポート
- ・ ICT 活用サポート

(センター長：角田)

【キャリアセンター】

キャリアセンターは、教職協働による学生の臨地・臨床実習および就職・進路に関する支援策の立案実施や情報共有を目的としている。今年度も学科毎の就職支援状況や臨地・臨床実習の受け入れ状況などを共有し、会議以外においても学科から要望があれば Microsoft forms を活用し全学科へ情報収集と共有を行った。また、2020 年度よりアセスメントの一環として導入した PROG テスト (ジェネリックスキルテスト) について、キャリアセンター事業であることを再周知し意義や目的を共有した。今後、学生が大学生活の中で自身の様々な能力を意識し、高めていくことが出来るような新たな取り組みを検討していきたい。

(センター長：村上)

【アドミッションセンター】

アドミッションセンターでは、学生募集に係る企画立案、運営を行うことを目的に設置された教職協働の組織である。具体的には、オープンキャンパスをはじめとする各種イベントの開催、広報ツール（パンフレットやWEB サイト）の制作、高校への出張講義等を中心に広報活動を実施した。また、入学試験においては、より正確かつ公正な入試運営ができるよう改善を図ると同時に、あらゆる入試データの分析を行い、今後の入試制度に繋がる取り組みを行った。

(センター長：小島)

【教職支援センター】

本センターは、本学の教職課程の質的向上を目指すとともに、教員免許状取得及び教職への就業等、教職を志望する学生の支援を目的としている。医療専門職と教員免許状取得を両立させる環境を学生に提供するため、令和3年度は次の取組を行った。

各種ガイダンスの実施：

- ・教育実習内諾に関するガイダンス
- ・教育実習、介護等体験に関するガイダンス
- ・教員免許一括申請に関するガイダンス

教員採用試験対策：

- ・専任教員による一般教養・教職教養対策講座の実施
- ・卒業生に対してのサポート（筆記・面接・模擬授業・実技対策）
- ・教員採用試験対策に関する図書の貸出し

学校現場体験：

- ・学校ボランティアの紹介（中学校1校に1名が参加）

学生サポート

- ・学習面や進路等について学生との面談・相談を実施

教職事務の集約化：

- ・教育実習、介護等体験に関する業務
- ・教員免許申請に関する業務
- ・教職課程科目及び成績管理に関する業務
- ・教員採用試験、教員採用に関する業務

<令和3年度 教職免許状取得実績>

- ・教職免許状取得者数[教科：保健体育] 12名
- ・教職免許状取得者数[教科：養護教諭] 6名

<令和3年度 教員採用試験合格者実績（卒業生含む）>

- ・教員採用試験合格者数：3名（全て卒業生）

(センター長：老田)

【地域連携センター】

地域連携センターは、本学における教育・研究活動と地域社会をつなぐことにより、本学の地域貢献活動を総合的かつ組織的に遂行することを目的として設置された教職協働の組織である。令和3年度はコロナ禍のため、予定していた「まちの保健室活動」など地域貢献イベントの実施が一部できなかったが、来年度からの新たな取り組みであるふれあい訪問のシステム構築のため、関係各所から情報収集などを行った。

(センター長：前川)

【鍼灸情報センター】

鍼灸情報センターは、鍼灸に関する学術を主とした情報を収集し、内容を吟味した上で Web および SNS で社会に向けて発信する活動を行ってきた。これは戦略的には鍼灸学術界でのリーダーシップの確保、鍼灸業界の信頼の獲得、および本学鍼灸学科に対する保護者や高校教員の認知度と信頼度の向上という意味合いがあった。

2021 年度中に Facebook のフォロワーが千人を超えた。また、2021 年 5 月には読売テレビの取材に協力し、「かんさい情報ネット ten.」における特集「ツボのカラクリ」に山下センター長と仲村鍼灸学科助教が出演した。これらにより間接的に鍼灸学科の募集力アップに貢献した。また、厚生労働省『「統合医療」に係る情報発信等推進事業』を受託している島根大学の「鍼灸エビデンスレポート」作成に関する発注を受け、本学に 365,200 円の収入を得た。

(センター長：山下)

【総務課】

総務課では、2020 年度に受審した公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価の評価結果を分析し、改善が必要な規程の改定、整備などを行った。また大学全教職員を対象としたSD研修をオンラインで行うなど、自己点検評価・FSD活動を推進した。またセレッソ大阪と連携し、ヨドコウ桜スタジアムにて入学式を実施、運営するとともに、卒業式も2部制で行うなど、新型コロナウイルス感染症拡大対策を徹底した。

施設設備の面では「メディカフェ」「さくらカフェ」について、コロナ禍における運営調整を行い、また売店を移設、拡充することにより学生生活の環境改善を図った。また、2022 年 3 月竣工した部室棟（パスレルポート）の施工管理を行い、学生環境の向上を図った。また 2022 年 4 月に開始された「森ノ宮医療大学大学院看護学専攻（博士前期課程）NP コース」におけるサテライトキャンパス全体の設備整備、備品購入、「森ノ宮医療大学大学院看護学専攻（博士後期課程）」の学修環境整備を行うとともに、2022 年秋に開始予定の森ノ宮医療大学附属クリニックの施設環境の整備調整などを行った。

（総務課長：瀬川）

【情報システム課】

情報システム課では、2020 年度に立ち上げた WEB 活用推進プロジェクト：「green innovation」を推進し、「モリパソ」の販売など BYOD(個人所有端末)の学内利用推進、無線アクセスポイント増設、BYOD 端末から学生用コピー機に直接プリントアウトするシステムの導入など行った。また学務システム「MORIPA」のバージョンアップを行い、学修環境の向上を図った。

（情報システム課長：瀬川）

【教務課】

教務課では通常業務に加え、2022 年度からの新学部、大学院看護学専攻博士後期課程、看護学専攻博士前期課程 NP コースの運用開始に伴う準備等、多数の業務に従事した。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2021 年度もオンライン授業の実施が必要となったことから、オンライン授業に関する各種マニュアル作成(動画)や、新 MORIPA の機能を利用した新たなオンライン授業の実施方法の提案等、学生や教員に対する支援業務を積極的に行った。なお、2020 年度より開講している IPW 関連科目である「MBS(Morinomiya Basic Seminar)」、「チーム医療見学実習」、「IPW 論」について、2021 年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により授業計画の変更や開講延期を余儀なくされたため、学内に動画撮影用のスタジオを新たに設置し、動画配信によるオンライン授業の実施を教員と共に推し進めた。また、「チーム医療見学実習」においては、連携先病院である「日本生命病院」の協力を得て、病院見学動画を制作し、見学実習の代替授業として学生に配信を行った。2022 年度以降も新型コロナウイルス感染症拡大の影響があるものと考えられるが、本学の掲げる「低学年からのチーム医療に関する積み上げ教育」を実践できるように IPW 関連科目の開講準備及び教育内容等の見直しと改善を進める。

（教務課長：竹中）

【学生支援課】

①就職

臨地実習期間中、休日にカウンセリング(履歴書添削・模擬面接)を受けられるようにすることで、学生がスムーズに就職活動を進めることができるよう体制を整えた。就職説明会には、キャリアスCMSシステムを導入し、運営する際の学科および学生支援課の業務負担を軽減した。また、当該システムを用いて鍼灸学科では初めてとなる低学年を対象とした企業(22 社)による勉強会を実施した。さらに、学修支援センターと協働し、

一般企業だけでなく医療業界でも選考試験に組み入れられている S P I 適性検査について、大学独自の S P I 受験会、S P I 対策講座（全 10 回 27 単元）を企画、実施した。

②奨学金

2020 年度より国の修学支援制度がスタートし、奨学金利用希望者ならびに利用者数が増加していることから、在校生・保護者を対象とした個別相談会（全 3 回）を実施した。

③学生会

学生自治に向けた新たな支援を行った。学生が企画したイベント「大学祭」「交流会」「勉強会」の運営支援、部活動の団体代表者たちが部活動を行う意義や心得などを考えるイベント「リーダーズ研修」の企画・運営支援を行った。

④課外活動

危機管理レベルを設定し、国からの要請が発出された場合でも学生が可能な限り活動を続けられるよう、団体が自ら感染症予防対策を考えヒアリングを経て大学側が活動可否を判断するような仕組みを構築し実施した。

⑤教育後援会

教育後援会総会の代替イベントとして、キャリア支援セミナーを企画し、講演会や学科懇談会、個別相談会を開催した。

⑥臨地・臨床実習

臨床検査技師学校養成所指定規則の変更に伴う変更承認申請業務を行った。

（学生支援課長：山中）

【学長事業推進課】

経営企画部学長事業推進課では、学長の指示のもと下記のとおり取り組みを行った。

①学長退任記念講演・新学長就任記念講演の開催

荻原俊男前学長（現名誉学長）の任期満了に伴う学長職の退任、青木元邦新学長の就任を記念して下記のとおり講演を行った。

- ・第 2 代 森ノ宮医療大学 学長 荻原俊男 退任記念講演

開催日：2021 年 4 月 22 日（木）

講演テーマ：「老年医学研究の軌跡」-Successful Aging をめざして-

- ・第 3 代 森ノ宮医療大学 学長 青木元邦 就任記念講演（第 107 回学術セミナー）

開催日：2021 年 10 月 21 日（木）

講演テーマ：Translational Research for Genomic Medicine

-遺伝子医薬品開発への挑戦-

②荻原俊男名誉学長 瑞宝中綬章受章に伴う事業

荻原俊男名誉学長が令和 3 年春の叙勲において瑞宝中綬章を受章されたことに伴い、下記事業に取り組んだ。

- ・森ノ宮医療大学 荻原俊男学長退任・叙勲記念誌「雲外蒼天」の発行

青木元邦学長を委員長として「荻原俊男学長退任・叙勲記念誌編集委員会」を発足し、2021 年 10 月 10 日に記念誌を発行した。

- ・荻原俊男先生瑞宝中綬章受章祝賀会の開催

清水尚道理事長、楽木宏実教授（大阪大学）、青木元邦学長、浜田暁校友会会長を発起人とし、2021 年 10 月 24 日（日）に祝賀会を開催した。

③森ノ宮医療大学 荻原賞の設置と表彰

「森ノ宮医療大学 荻原賞」は、荻原俊男名誉学長からの寄附を原資とし、継続的な教育・研究活動により本学の榮譽を高める顕著な功績を挙げた教員を表彰するもので、今年度より設置した。また、第1回 荻原賞として下記のとおり表彰した。

・森ノ宮医療大学 第1回 荻原賞

大学院保健医療学研究科 山下 仁 研究科長

2022年3月16日に表彰式が執り行われ、青木元邦学長より表彰楯、荻原俊男名誉学長より副賞が授与された。山下研究科長は、客観性を重視する研究スタイルにより、鍼灸領域においては学外にも大きな影響を与え、また、本学大学院保健医療学研究科の設置・活性化においても中心的な役割を果たし、本学の質向上に大きく寄与された。本学には開学時から在籍され、その長きにわたる貢献は、荻原賞にふさわしいものとしてこの度の受賞に至った。

(学長事業推進課長：小島)

【経営企画課/IR推進課】

経営企画部経営企画課では、学部再編に伴う看護学部と総合リハビリテーション学部の設置および看護学専攻の課程の変更(博士後期課程の新設)、学部名称変更に関する文部科学省への届出書類提出および指定申請書類の提出を2021年4月に行った。また、学部再編に伴い、保健医療学部の看護学科、理学療法学科、作業療法学科の募集停止を文部科学省に報告した。そのほか、診療放射線学科、臨床検査学科、助産学専攻科の指定規則変更に伴うカリキュラム変更の申請書類提出を行った。

また、看護学専攻博士前期課程において高度実践看護師の育成を目的としたNP(診療看護師)養成課程の開設を目指し、日本NP教育大学院協議会への申請および厚生労働省への特定行為研修指定研修機関の申請業務を行った。

社会連携活動としては、大阪府内の企業との連携協定1件、プロスポーツチームとの連携協定を1件締結したほか、大学院との単位互換協定を1件新規に締結した。また、地域連携の主幹部署として6月24日に市民公開講座「睡眠障害」を、10月31日に市民公開講座「がん診療の最前線3」を開催した。そのほか、南港ポートタウン(太陽のまち)において、看護・理学・作業の3学科の教員が中心となって、「もりもりまちの保健室」と題した高齢者支援活動を7月、10～1月の計4回実施した(5, 6, 9, 12月はコロナの感染状況を鑑み中止)。また、子供を対象とした地域イベント「咲洲こどもEXPO 2021」に臨床工学科と共同で参加した。

新規の取り組みとしては、本学での新型コロナワクチンの職域接種開始にあたり、咲洲地区の企業の社員、大学、高校、保育園の教職員への接種を本学で実施することとなり、窓口部署としての取りまとめを行った。また、職域接種の記録動画「職域接種 story movie」を作成し、YouTubeで公開した。

そのほか、「大学コンソーシアム大阪」を母体とする「大阪府地域連携プラットフォーム」に参画したほか、IR推進課が担当するIR活動としては、GPAや各種テストの成績等の教学データの分析を行った。

(経営企画課長：小島)

(IR推進課課長：岸川)

【広報課】

広報課では、コロナ禍における広報活動の方法について事前に対策を講じ、本学認知度の向上、さらには志願者確保に努めた。オープンキャンパスをはじめとする各種対面型のイベントについては、2部制や平日イベント等を開催することで、参加者数を大幅に回復させることが出来た。また、WEBでの広報展開を一段と強化し、公式サイトでは動画を中心に各コンテンツの充実を図った。そのほか、ステークホルダー別に制作した各種発刊物やLINE等を通して情報発信を定期的に行った。これらの取り組みによって、

イベント参加者数の回復に加え、資料請求者数、イベント参加者数、志願者数は過去最大の数字となった。

- ・年間資料請求者数：33,703 件（前年比 113.6%）
- ・年間 WEB サイトユーザー数：633,974（前年比 95.1%）
- ・年間イベント来校者数：6,623（前年比 240.6%）
- ・志願者数：5,687 名（前年比 117.8%）

（広報課長：石塚）

【会計課】

会計課では、予算執行管理において部署別予算や卒業研究費予算等の執行管理のため、引き続き月末締ベースで予算執行の実績把握を行い、各部署での予算執行把握と予算編成時の参考資料の充実を行った。

学費関連の対応としては、学費支弁者様の銀行窓口での振込手続きの手間と振込手数料の負担を軽減させるため、全学で学納金の口座振替を 2022 年度前期学納金より導入する準備を行いました。口座振替にあたり、振替用口座情報の登録をパソコンやスマートフォンにて行える Web 受付サービスも取り入れ、学納金納入手続きの利便性を高めた。また、コロナ禍における収入減等による学納金納入が困難となった学生へ、学生支援課と連携を取りながら国の修学支援新制度や奨学金などの制度を活用して対応を行った。

（会計課長：岩崎）

【入試課】

入試課では従来の入試運營業務に加えて、経営企画課が担当していた作問業務の引継ぎおよび広報課が担当していた入試関連の制作媒体を引き継いだ。よって入試課設置時の第一目標であった「入試関連業務の集約」を行い、入試専門部署としての体制を構築した。2022 年度以降は引き継いだ業務の標準化をめざすが、特に作問業務については抜本的な改善を行い、出題ミスが発生しない業務体制を確立させていく。

また、2025 年度の入試改革に向けても今年度中に公開が必要であるため、他大学の状況や本学の入試分析を基に受験生が受験しやすい入試制度を構築する。

（入試課長：廣澤）

【健康管理課】

健康管理課では健康管理センターと連携し、学生の健康管理、健康増進、感染症対策、メンタルヘルスケア、臨地臨床実習関連業務等に取り組んだ。特に感染症予防に関する対策等の指導ならびに情報発信、情報収集等を実施し、感染症予防と学生教職員の安全確保に努めた。また感染症拡大予防の一環として新型コロナワクチン接種（職域接種）に参画し、本学学生ならびに教職員、近隣大学、専門学校 of 学生ならびに教職員、近隣企業の従業員等に新型コロナワクチン接種を実施した。

（健康管理課長：在川）

(2) 事業成果の概要

① 在学生数・定員充足率・退学者数等の推移

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
鍼灸学科	1 年生	68	69	59	70
	2 年生	64	63	65	56
	3 年生	62	59	60	64
	4 年生	67	69	66	68
	計	261	260	250	258
定員		240	240	240	240
定員充足率		108.8%	108.3%	104.2%	107.5%
退学者数		14	12	7	
退学率		5.4%	4.6%	2.8%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
理学療法学科	1 年生	70	70	70	70
	2 年生	69	70	70	67
	3 年生	65	67	69	67
	4 年生	69	70	70	76
	計	273	277	279	280
定員		260	270	280	280
定員充足率		105.0%	102.6%	99.6%	100%
退学者数		4	3	7	
退学率		1.5%	1.1%	2.5%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
看護学科	1 年生	90	90	90	91
	2 年生	89	87	90	90
	3 年生	83	88	85	87
	4 年生	83	83	92	90
	計	345	348	357	358
定員		340	350	360	360
定員充足率		101.5%	99.4%	99.2%	99.4%
退学者数		5	5	6	
退学率		1.4%	1.4%	1.7%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
臨床検査学科	1 年生	72	72	72	75
	2 年生	70	71	69	71
	3 年生	70	68	68	68
	4 年生	71	68	69	68
	計	283	279	278	282
定員		240	250	260	270
定員充足率		117.9%	111.6%	106.9%	104.4%
退学者数		7	8	4	
退学率		2.5%	2.9%	1.4%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
作業療法学科	1 年生	50	52	45	50
	2 年生	52	50	49	44
	3 年生	42	47	48	47
	4 年生	41	43	48	48
	計	185	192	190	189
定員		160	160	160	160
定員充足率		115. 6%	120. 0%	118. 8%	118. 1%
退学者数		5	9	6	
退学率		2. 7%	4. 7%	3. 2%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
臨床工学科	1 年生	71	66	71	73
	2 年生	68	69	62	68
	3 年生		68	68	58
	4 年生			66	69
	計	139	203	267	268
定員		120	180	240	240
定員充足率		115. 8%	112. 8%	111. 3%	111. 7%
退学者数		2	7	9	
退学率		1. 4%	3. 4%	3. 4%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
診療放射線学科	1 年生		90	93	90
	2 年生			89	89
	3 年生				88
	4 年生				
	計		90	182	267
定員			80	160	240
定員充足率			112. 5%	113. 8%	111. 3%
退学者数			1	5	
退学率			1. 1%	2. 7%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
学部計	1 年生	421	509	500	519
	2 年生	412	410	494	485
	3 年生	322	397	398	479
	4 年生	331	333	411	419
	計	1486	1649	1803	1902
定員		1360	1530	1700	1790
定員充足率		109. 3%	107. 8%	106. 1%	106. 3%
退学者数		37	45	44	
退学率		2. 5%	2. 7%	2. 4%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
大学院 修士課程 (保健医療学 専攻)	1 年生	9	8	8	4
	2 年生	6	9	8	10
	計	15	17	16	14
定員		12	12	12	12
定員充足率		125. 0%	141. 7%	133. 3%	116. 7%
退学者数		0	0	0	
退学率		0. 0%	0. 0%	0. 0%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
大学院 修士課程/ 博士前期課程 (看護学専 攻)	1 年生		2	3	6
	2 年生			2	2
	計		2	5	8
定員			6	12	12
定員充足率			33. 3%	41. 7%	66. 7%
退学者数			0	1	
退学率			0. 0%	20. 0%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
大学院 博士後期課程 (医療科学専 攻)	1 年生	1	1	3	2
	2 年生	4	1	1	3
	3 年生		4	2	1
	計	5	6	6	6
定員		4	6	6	6
定員充足率		125. 0%	100. 0%	100. 0%	100. 0%
退学者数		0	0	0	
退学率		0. 0%	0. 0%	0. 0%	

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
大学院 博士後期課程 (看護学専 攻)	1 年生				2
	2 年生				
	3 年生				
	計				2
定員					2
定員充足率					100. 0%
退学者数					
退学率					

学生数		2019. 5. 1	2020. 5. 1	2021. 5. 1	2022. 5. 1
助産学専攻科	1 年生	9	10	11	10
	計	9	10	11	10
定員		10	10	10	10
定員充足率		90.0%	100.0%	110.0%	100.0%
退学者数		1	4	2	
退学率		11.1%	40.0%	18.2%	

② 2022 年度 看護学部/総合リハビリテーション学部/医療技術学部 入学試験受験者数

看護学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	79	13	92	77	13	90	7	0	7
総合型選抜 【学力重視型】A日程	357	19	376	353	19	372	45	0	45
総合型選抜 【学力重視型】B日程	343	18	361	338	18	356	41	0	41
一般選抜前期 A日程 3科目型	143	12	155	136	11	147	21	0	21
一般選抜前期 A日程 2科目型	194	2	196	182	2	184	27	0	27
一般選抜前期 B日程 3科目型	55	8	63	50	6	56	9	0	9
一般選抜前期 B日程 2科目型	78	0	78	72	0	72	10	0	10
一般選抜 中期	106	4	110	97	4	101	11	0	11
一般選抜 後期	60	2	62	57	1	58	16	0	16
大学入学共通テスト 利用選抜	9	1	10	8	0	8	3	0	3
社会人選抜 I 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	9	0	9	9	0	9	9	0	9
計	1433	79	1512	1379	74	1453	199	0	199

理学療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	36	36	72	35	36	71	8	0	8
総合型選抜 【学力重視型】A日程	123	78	201	121	78	199	33	0	33
総合型選抜 【学力重視型】B日程	111	79	190	110	79	189	29	0	29
一般選抜前期 A日程 3科目型	40	27	67	36	26	62	18	0	18
一般選抜前期 A日程 2科目型	68	12	80	59	11	70	17	0	17
一般選抜前期 B日程 3科目型	21	12	33	20	11	31	7	0	7
一般選抜前期 B日程	30	5	35	27	5	32	8	0	8

2科目型									
一般選抜 中期	36	22	58	32	22	54	6	0	6
一般選抜 後期	19	14	33	17	14	31	4	0	4
大学入学共通テスト 利用選抜	1	2	3	1	1	2	0	0	0
社会人選抜 I 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II 期	0	1	1	0	1	1	0	0	0
指定校推薦選抜	15	0	15	15	0	15	15	0	15
計	500	288	788	473	284	757	145	0	145

作業療法学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	20	36	56	20	36	56	15	11	26
総合型選抜 【学力重視型】A日程	29	81	110	29	81	110	18	0	18
総合型選抜 【学力重視型】B日程	24	80	104	24	79	103	13	0	13
一般選抜前期 A日程 3科目型	3	26	29	3	25	28	2	1	3
一般選抜前期 A日程 2科目型	4	21	25	4	21	25	3	1	4
一般選抜前期 B日程 3科目型	5	19	24	5	18	23	5	2	7
一般選抜前期 B日程 2科目型	7	4	11	7	3	10	5	0	5
一般選抜 中期	4	35	39	3	32	35	0	6	6
一般選抜 後期	4	14	18	4	13	17	4	4	8
大学入学共通テスト 利用選抜	2	1	3	2	1	3	2	0	2
社会人選抜 I 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II 期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	9	0	9	9	0	9	9	0	9
計	111	317	428	110	309	419	76	25	101

臨床検査学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	48	50	98	48	50	98	18	6	24
総合型選抜 【学力重視型】A日程	109	104	213	106	103	209	24	0	24
総合型選抜 【学力重視型】B日程	99	97	196	94	95	189	21	0	21
一般選抜前期 A日程 3科目型	48	41	89	45	37	82	21	0	21
一般選抜前期 A日程 2科目型	68	15	83	65	13	78	23	0	23
一般選抜前期 B日程 3科目型	23	27	50	20	23	43	7	0	7

一般選抜前期 B日程 2科目型	31	10	41	27	10	37	6	0	6
一般選抜 中期	40	37	77	38	34	72	10	0	10
一般選抜 後期	24	18	42	22	17	39	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜	5	8	13	5	8	13	2	0	2
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	1	0	1	1	0	1	0	0	0
指定校推薦選抜	6	0	6	6	0	6	6	0	6
計	502	407	909	477	390	867	139	6	145

臨床工学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	33	52	85	33	52	85	21	13	34
総合型選抜 【学力重視型】A日程	30	102	132	29	101	130	17	6	23
総合型選抜 【学力重視型】B日程	29	94	123	28	93	121	16	7	23
一般選抜前期 A日程 3科目型	7	35	42	7	32	39	4	1	5
一般選抜前期 A日程 2科目型	9	27	36	9	25	34	6	3	9
一般選抜前期 B日程 3科目型	7	25	32	7	24	31	6	1	7
一般選抜前期 B日程 2科目型	9	10	19	9	10	19	8	0	8
一般選抜 中期	2	44	46	1	41	42	0	14	14
一般選抜 後期	3	17	20	3	16	19	1	1	2
大学入学共通テスト 利用選抜	1	7	8	1	7	8	1	2	3
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	7	0	7	7	0	7	7	0	7
計	137	413	550	134	401	535	87	48	135

診療放射線学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	127	28	155	127	28	155	14	0	14
総合型選抜 【学力重視型】A日程	215	72	287	212	72	284	29	0	29
総合型選抜 【学力重視型】B日程	201	67	268	195	66	261	27	0	27
一般選抜前期 A日程 3科目型	75	28	103	69	27	96	19	0	19
一般選抜前期 A日程 2科目型	112	11	123	104	10	114	26	0	26
一般選抜前期 B日程 3科目型	55	17	72	51	15	66	10	0	10

一般選抜前期 B日程 2科目型	74	7	81	70	6	76	13	0	13
一般選抜 中期	65	20	85	61	19	80	9	0	9
一般選抜 後期	29	14	43	28	12	40	7	0	7
大学入学共通テスト 利用選抜	14	3	17	12	3	15	1	0	1
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	1	1	0	1	1	0	0	0
指定校推薦選抜	5	0	5	5	0	5	5	0	5
計	972	268	1240	934	259	1193	160	0	160

鍼灸学科	志願者数			受験者数			合格者		
	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計	第1	第2・3	計
総合型選抜 【学習成果重視型】	24	16	40	24	16	40	21	7	28
総合型選抜 【スポーツ実績重視型】	13	0	13	13	0	13	13	0	13
総合型選抜 【学力重視型】A日程	6	51	57	6	51	57	5	0	5
総合型選抜 【学力重視型】B日程	5	49	54	5	47	52	4	0	4
一般選抜前期 A日程 3科目型	7	8	15	7	8	15	5	0	5
一般選抜前期 A日程 2科目型	8	6	14	8	6	14	7	2	9
一般選抜前期 B日程 3科目型	3	10	13	3	10	13	2	1	3
一般選抜前期 B日程 2科目型	3	4	7	3	3	6	2	0	2
一般選抜 中期	1	16	17	1	14	15	1	2	3
一般選抜 後期	1	5	6	1	5	6	1	0	1
大学入学共通テスト 利用選抜	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 I期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人選抜 II期	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦選抜	24	0	24	24	0	24	24	0	24
計	95	165	260	95	160	255	85	12	97

③ 2022年度 大学院入学試験受験者数

保健医療学専攻 【修士課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	0	0	0	0
第2次募集	2	2	2	2
第3次募集	2	2	2	2
計	4	4	4	4

看護学専攻 【博士前期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	5	5	4	4
第2次募集	4	4	2	2
第3次募集	0	0	0	0
計	9	9	6	6

医療科学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	2	2	2	2
第2次募集	0	0	0	0
計	2	2	2	2

看護学専攻 【博士後期課程】	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	0	0	0	0
第2次募集	2	2	2	2
計	2	2	2	2

④2022 年度 助産学専攻科入学試験受験者数

助産学専攻科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
一般入試Ⅰ	20	20	6	6
推薦入試	0	0	0	0
学内推薦入試	4	4	4	4
一般入試Ⅱ	－	－	－	－
計	24	24	10	10

※一般入試Ⅱについては定員に達したため、実施せず。

⑤ 国家試験合格率

■看護師 第111回

全体 受験者数：65,025人 合格者数：59,344人 合格率：91.3%
 新卒 受験者数：59,148人 合格者数：57,057人 合格率：96.5%
 本学新卒 受験者数：84人 合格者数：84人 合格率：100%

■保健師 第108回

全体 受験者数：7,948人 合格者数：7,094人 合格率：89.3%
 新卒 受験者数：7,504人 合格者数：6,975人 合格率：93.0%
 本学新卒 受験者数：10人 合格者数：10人 合格率：100%

■助産師 第105回

全体 受験者数：2,089人 合格者数：2,077人 合格率：99.4%
 新卒 受験者数：2,078人 合格者数：2,071人 合格率：99.7%
 本学新卒 受験者数：9人 合格者数：9人 合格率：100%

■理学療法士 第57回

全体	受験者数：12,685人	合格者数：10,096人	合格率：79.6%
新卒	受験者数：10,549人	合格者数：9,296人	合格率：88.1%
本学新卒	受験者数：61人	合格者数：60人	合格率：98.4%

■作業療法士 第57回

全体	受験者数：5,723人	合格者数：4,608人	合格率：80.5%
新卒	受験者数：4,861人	合格者数：4,311人	合格率：88.7%
本学新卒	受験者数：44人	合格者数：44人	合格率：100%

■臨床検査技師 第68回

全体	受験者数：4,948人	合格者数：3,729人	合格率：75.4%
新卒	受験者数：4,092人	合格者数：3,537人	合格率：86.4%
本学新卒	受験者数：60人	合格者数：48人	合格率：80.0%

■臨床工学技士 第35回

全体	受験者数：2,603人	合格者数：2,096人	合格率：80.5%
新卒	受験者数：2,314人	合格者数：2,038人	合格率：88.1%
本学新卒	受験者数：53人	合格者数：52人	合格率：98.1%

■はり師 第30回

全体	受験者数：3,982人	合格者数：2,956人	合格率：74.2%
新卒	受験者数：3,059人	合格者数：2,761人	合格率：90.3%
本学新卒	受験者数：47人	合格者数：45人	合格率：95.7%

■きゅう師 第30回

全体	受験者数：3,892人	合格者数：2,963人	合格率：76.1%
新卒	受験者数：3,059人	合格者数：2,795人	合格率：91.3%
本学新卒	受験者数：47人	合格者数：45人	合格率：95.7%

⑥ 職種別求人件数

本学宛に送付されてきた求人職種別件数は以下のとおりである。看護師、保健師、助産師、理学療法士、はり師、きゅう師、中高保健体育教員等に加えて、作業療法士、臨床検査技師、診療放射線技師や大学生卒業者を対象とする事務職、営業・販売職など多彩な求人情報が本学に寄せられた。

職種	件数
看護師	682
保健師	140
助産師	107
理学療法士	1264
作業療法士	1161
臨床検査技師	427
臨床工学技士	277
診療放射線技師	121
はり・きゅう師	365
その他医療従事者	994
福祉関係(介護職)	1070
教員	239
事務職	3547

営業職	3187
その他	5630
総計	19211

＜有効求人倍率について＞

本学に寄せられた各学科への求人数を求職者数より算出した学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値 2021 年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均 1.50 倍（リクルートワークス社調べ）

	看護学科	理学療法学科	作業療法学科	臨床検査学科	臨床工学科	鍼灸学科
求人数 (件)	647	834	810	292	200	363
求職者数 (人数)	84	62	45	67	63	55
求人倍率 (倍)	7.70	13.45	18.00	4.36	3.17	6.60

⑦ 学修支援センター主催事業

2021 年度 ステップアップ講座 開催実績

①Step Up 講座 人体の機能 12 講義（全学年対象）講師：五十嵐教授

	日時	場所	参加者数
第 1-12 回	2021 年 4 月 1 日～閲覧可能	VOD	算定不能

②解剖生理学～重要ポイントの復習～ 講師：木田教授

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 9 月 21 日 (火) 13:00～14:30	S471	18 名
第 2 回	2021 年 9 月 21 日 (火) 13:00～14:30	S471	18 名

③生物/化学リメディアル 講師：佐久間助教

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 10 月 28 日 (木)	S471	10 名
第 2 回	2021 年 11 月 4 日 (木)	S471	10 名
第 3 回	2021 年 11 月 11 日 (木)	S471	5 名
第 4 回	2021 年 11 月 18 日 (木)	S471	6 名
第 5 回	2021 年 11 月 25 日 (木)	S471	5 名

④解剖学・生理学 講師：朝倉センター員

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 10 月 12 日 (火)	C353	13 名
第 2 回	2021 年 10 月 19 日 (火)	C353	13 名
第 3 回	2021 年 10 月 26 日 (火)	C353	15 名
第 4 回	2021 年 11 月 2 日 (火)	C353	17 名
第 5 回	2021 年 11 月 9 日 (火)	C353	17 名
第 6 回	2021 年 11 月 16 日 (火)	C353	12 名

⑤病態運動学から解剖学や生理学の大切さ

	日時	場所	参加者数
第1回	2021年10月8日(金)	C353	16名
第2回	2021年10月15日(金)	C353	19名
第3回	2021年10月22日(金)	C353	12名
第4回	2021年10月29日(金)	C353	14名
第5回	2021年11月5日(金)	C353	10名
第6回	2021年11月12日(金)	C353	13名
第7回	2021年11月19日(金)	C353	12名

⑥Step Up 講座 ME2 種対策講座（2 講義×5 日）（臨床工学科 全学年対象）

「Step Up 講座 ME2 種対策講座（生体計測装置学，治療機器学）」講師：松井講師（外部講師）

	日時	場所	参加者数
第1回	2021年7月6日～9月27日	E棟415	74名
第2回	2021年7月13日～9月27日	E棟415	58名
第3回	2021年7月20日～9月27日	E棟415	33名
第4回	2021年8月16日～9月27日	VOD	54名
第5回	2021年8月25日～9月27日	VOD	54名

*VOD 講義による参加人数は「Teams」の講義登録者数とした。

⑦Step Up 講座 2021 年度 医療情報技師能力検定試験 受検対策講座（臨床工学科 全学年対象）

「Step Up 講座 2021 年度 医療情報技師能力検定試験 受検対策講座」講師：入江講師（外部講師）

	日時	場所	参加者数
第1回	2021年6月3日～8月21日	VOD	65名
第2回	2021年6月10日～8月21日	VOD	65名
第3回	2021年6月17日～8月21日	VOD	65名
第4回	2021年6月24日～8月21日	VOD	65名
第5回	2021年7月1日～8月21日	VOD	65名
第6回	2021年7月8日～8月21日	VOD	65名
第7回	2021年7月15日～8月21日	VOD	65名
第8回	2021年7月29日～8月21日	VOD	65名

*2021 年度 医療情報技師能力検定試験 8 月 22 日のため 8 月 21 日まで閲覧可能とした。

*VOD 講義による参加人数は「Teams」の講義登録者数とした。

⑧Step Up 講座 医用機器安全管理学（臨床工学科 3 年生対象）講師：布江田准教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2021年5月16日～	You tube	算定不能

⑨Step Up 講座 医用機器安全管理学（臨床工学科 4 年生対象）講師：布江田准教授

	日時	場所	参加者数
第1回	2021年5月28日3限目	C351	26名
第2回	2021年5月28日4限目	C351	26名
第3回	2021年6月4日3限目	C351	27名
第4回	2021年6月11日3限目	C351	25名
第5回	2021年6月18日3限目	C351	12名
第6回	2021年6月25日3限目	C351	12名
第7回	2021年7月9日3限目	C351	26名
第8回	2021年8月16日3限目	C352	16名
第9回	2021年8月16日4限目	C352	16名

⑩Step Up 講座 医用工学（臨床工学科 1 年生対象）講師：布江田准教授

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 6 月 9 日 ～	You tube	算定不能
第 2 回	2021 年 6 月 15 日 ～	You tube	算定不能
第 3 回	2021 年 6 月 21 日 ～	You tube	算定不能
第 4 回	2021 年 7 月 14 日 ～	You tube	算定不能
第 5 回	2021 年 7 月 15 日 ～	You tube	算定不能

⑪Step Up 講座 第 2 種 ME 検定実力検定試験対策（安全管理）（臨床工学科 1 年生対象）

講師：布江田准教授

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 6 月 4 日 2 限目	オンライン	16 名
第 2 回	2021 年 6 月 11 日 1 限目	C559	15 名
第 3 回	2021 年 6 月 11 日 2 限目	C559	15 名
第 4 回	2021 年 6 月 18 日 1 限目	C559	11 名
第 5 回	2021 年 6 月 18 日 2 限目	C559	11 名

⑫Step Up 講座 医用工学（臨床工学科 2 年生対象）講師：布江田准教授

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 7 月 15 日～9 月 11 日	You tube	算定不能
第 2 回	2021 年 7 月 15 日～9 月 11 日	You tube	算定不能
第 3 回	2021 年 7 月 15 日～9 月 11 日	You tube	算定不能
第 4 回	2021 年 7 月 15 日～9 月 11 日	You tube	算定不能
第 5 回	2021 年 7 月 15 日～9 月 11 日	You tube	算定不能
第 6 回	2021 年 7 月 15 日～9 月 11 日	You tube	算定不能
第 7 回	2021 年 7 月 15 日～9 月 11 日	You tube	算定不能

⑬Step Up 講座 放射線科学（臨床工学科 1 年生対象）講師：西浦教授、山畑助教

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 10 月 11 日～12 月 20 日	S371	50 名
第 2 回	2021 年 10 月 11 日～12 月 20 日	S371	48 名
第 3 回	2021 年 10 月 11 日～12 月 20 日	S371	47 名
第 4 回	2021 年 10 月 11 日～12 月 20 日	S371	50 名
第 5 回	2021 年 10 月 11 日～12 月 20 日	S371	47 名
第 6 回	2021 年 10 月 11 日～12 月 20 日	S371	37 名
第 7 回	2021 年 10 月 11 日～12 月 20 日	S371	34 名

⑭Step Up 講座 基礎医学大要（臨床工学科 2 年生対象）講師：山口教授、船橋教授

	日時	場所	参加者数
第 1 回	2021 年 10 月 21 日～1 月 19 日	S374	50 名
第 2 回	2021 年 10 月 21 日～1 月 19 日	S374	48 名
第 3 回	2021 年 10 月 21 日～1 月 19 日	S374	47 名
第 4 回	2021 年 10 月 21 日～1 月 19 日	S374	50 名
第 5 回	2021 年 10 月 21 日～1 月 19 日	S374	47 名
第 6 回	2021 年 10 月 21 日～1 月 19 日	S374	37 名
第 7 回	2021 年 10 月 21 日～1 月 19 日	S374	34 名

⑧ 研究業績

<英文>

看護学科

- Sekiguchi T, Kabayama M, Ryuno H, Tanaka K, Kiyoshige E, Akagi Y, Godai K, Sugimoto K, Akasaka H, Takami Y, Takeya Y, Yamamoto K, Yasumoto S, Masui Y, Ikebe K, Gondo Y, Arai Y, Ishizaki T, Rakugi H, Kamide K. Association between protein intake and changes in renal function among Japanese community-dwelling older people: The SONIC study. *Geriatr Gerontol Int*. 2022 Apr; 22(4): 286-291.
- Hasuike M, Hara Y, Mori HM, Ideguchi N, Shirai F, Yoshimura Y, Murakami I, Kawahata H, Aoki M, Ogihara T. Influence of New Coronavirus Pandemic on Behavior and Awareness of Young Nurses and Nursing Students in Japan. *BMC Nursing*. 2021 Nov 24; 20(1): 237.

理学療法学科

- Ikezu M, Kudo S, et al. Sites of flexor-pronator muscle injury and relationship between ulnar collateral ligament injury and flexor-pronator muscle injury in baseball players: A retrospective cohort study. *Journal of shoulder and elbow surgery*. 2022 Feb 18; S1058-2746(22):00231-2.
- Kudo S, Sakamoto K. Influence of a novel elastic foot orthosis in foot motion during locomotion in adults with mild flatfoot. *Gait & posture*. 2022 Jan 22; 93: 59-63.
- Hirakawa K, Tsutsumi M, Kudo S. Investigation of the relationship between the thickness of the plantar calcaneonavicular ligament and plantar fascia in patients with plantar fasciitis. *Foot (Edinburgh, Scotland)*. 2021 Dec 23; 50: 101890.
- Nakamoto M, Kakuda A, Miyashita T, Kitagawa T, Kitano M, Hara M, Kudo S. Seated Virtual Reality-Guided Exercise Improved Gait in a Postoperative Hallux Valgus Case. *International journal of environmental research and public health*. 2021 Dec 16; 18(24):13267.
- Fukumoto Y, Miyashita T, Kitano M, Okuno Y, Kudo S. Characteristics of the descending genicular artery blood flow velocity in patients with knee osteoarthritis. *The Knee*. 2021 Dec; 33: 143-149.
- Miyashita T, Katayama S, Yamamoto A, Sakamoto K, Kitano M, Takasaki R, Kudo S. The Effect of Functional Biomechanics Garment for Walking. *International journal of environmental research and public health*. 2021 Nov 25; 18(23):12415.
- Tsutsumi M, Nimura A, Utsunomiya H, Kudo S, Akita K. Spatial distribution of loose connective tissues on the anterior hip joint capsule: a combination of cadaveric and in-vivo study. *Scientific reports*. 2021 Nov 24; 11(1):22813-22813.
- Katayama N, Noda I, Fukumoto Y, Kawanishi K, Kudo S. Effects of isometric contraction of the quadriceps on the hardness and blood flow in the infrapatellar fat pad. *Journal of physical therapy science*. 2021 Oct; 33(10):722-727.
- Nakanishi S, Morimoto R, Kitano M, Kawanishi K, Tanaka A, Kudo S. Difference in Movement between Superficial and Deep Parts of the Infrapatellar Fat Pad during Knee Extension. *Journal of functional morphology and kinesiology*. 2021 Aug 14; 6(3):68.
- Sakamoto K, Tsujioka C, Sasaki M, Miyashita T, Kitano M, Kudo S. Validity and reproducibility of foot motion analysis using a stretch strain sensor. *Gait & posture*. 2021 May; 86:180-185.
- Nakamoto M, Kakuda A, Miyashita T, Kitagawa T, Kitano M, Hara M, Kudo S. Seated Virtual Reality-guided Exercise Improved Gait in a Postoperative Hallux Valgus Case. *International Journal of Environmental Research and Public Health*. 2021; 18(24):13267.

作業療法学科

- Ogawa Y, Fukuhara K, Tanaka H, Nagata Y, Ishimaru D, Urakawa M, Nishikawa T. Insight Into Illness and Psychological Defense Attitudes in People With Chronic Schizophrenia Using Markova's Insight Scale. The Journal of Nervous and Mental Disease. 2021; 209(12):879-883.

臨床工学科

- Tsuji Y, Yasumasa H, Mizuno-Matsumoto Y. The association between ultrafiltration rate and mortality in a cohort of chronic hemodialysis patients with and without diabetes mellitus: a 7-year retrospective observational study. Bulletin of Morinomiya University of Medical Sciences. 2021; 15:1-10.

診療放射線学科

- Imai S, Akahane M, Ogata Y, Tanki N, Sato H, Tameike K. Occupational eye lens dose in endoscopic retrograde cholangiopancreatography using a dedicated eye lens dosimeter. Journal of Radiological Protection. 2021; 41(3):579-589.
- Takamura H, Nakayama Y, Ito H, Katayama T, Fraser E. P, Matsuzaki S. SUMO1 MODIFICATION OF TAU IN PROGRESSIVE SUPRANUCLEAR PALSY Article. Molecular Neurobiologylar. DOI: 10.1007/s12035-022-02734-5

鍼灸学科

- Nakahara H, Ueda SY, Kawai E, Higashiura R, Miyamoto T. Effects of pre-exercise acupuncture stimulation on heart rate response during short-duration exercise. BMC sports science, medicine & rehabilitation. 2021; 13(1):129-129.
- Okawa Y, Yamashita H, Masuyama S, Fukazawa Y, Wakayama I. Quality assessment of Japanese clinical practice guidelines including recommendations for acupuncture. Integr Med Res. 2022; 11(3):100838.
- Miyashita T, Katayama S, Yamamoto A, Sakamoto K, Kitano M, Takasaki R, Kudo S. The Effect of Functional Biomechanics Garment for Walking. International Journal of Environmental Research and Public Health. 2021; 18(23):12415.

インクルーシブ医科学研究所

- Tsutsumi M, Nimura A, Akita K. Clinical anatomy of the musculoskeletal system in the hip region. Anat Sci Int. 2022 Mar;97(2):157-16.
- Tsutsumi M, Nimura A, Utsunomiya H, Kudo S, Akita K. Spatial distribution of loose connective tissues on the anterior hip joint capsule: a combination of cadaveric and in-vivo study. Sci Rep. 2021 Nov 24;11(1):2281.
- Tsutsumi M, Nimura A, Utsunomiya H, Akita K. Dynamic changes of the joint capsule in relation to the zona orbicularis: An anatomical study with possible implications for hip stability mechanism. Clin Anat. 2021 Nov;34(8):1157-1164.

<和文>

看護学科

- 岩佐由美, 鈴木美代子, 岡野紀美子, 木村香里. 在宅のパーキンソン病患者を支える看護実践—ケア, アセスメント, 心構え— 難病と在宅ケア. 2022; 27(11):29-34.
- 徳島佐由美, 安井渚, 樋口優子. 小児看護学における動画撮影フィードバックを用いた技術演習の試み. 森ノ宮医療大学紀要. 2021; (15):43-51.

- ・徳島佐由美, 藤田優一, 藤原千恵子, 植木慎悟, 他. 重症心身障がい児の短期入所における養育者の安心につながる要因. 日本小児保健協会. 2021; 80(4):463-470.
- ・徳島佐由美. レスパイト入院における重症心身障がい児の養育者が看護支援に対する期待の程度と受けた頻度. 日本小児看護学会誌. 2021; 30:181-189.

理学療法学科

- ・中根征也, 安田彩夏, 松尾浩希, 平川正彦, 杉本圭, 檜垣奨, 笹倉栄人, 富田昌夫. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンラインで実施した臨床実習の学生満足度と今後の課題. 理学療法学. 2021; 48(6):628-635.

作業療法学科

- ・小西弘一, 門田敦志, 宮本玲奈, 橋本弘子. パーキンソン病患者に対する足指ダンスのバランス機能と歩行の効果. 森ノ宮医療大学紀要. 2021; 16:57-63.
- ・東泰弘, 高畑進一, 兼田敏克, 中岡和代, 石原充. 古典的テスト理論による日本版 ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation (A-ONE)の信頼性と妥当性の検討. 作業療法. 2021; 40(2):214-224.

臨床工学科

- ・加納寛也, 近藤慶, 柴田康成, 岡田祐輝, 守田佳保里, 森島毅, 吉谷信幸, 長嶋耕平, 林太郎. 人工心肺離脱後薬剤性アナフィラキシーによる急性重症右心不全に陥った患者に V-A ECMO を導入した 1 例. Japanese Journal of Extra-Corporeal Technology. 2021; 48(4):284-289.
- ・藤江建朗, 玉元由果莉, 海本浩一, 中村英夫. PSG および ICH 脳波との睡眠段階判定者間での正確性評価. 医工学治療. 2021; 33(3):138-147.

鍼灸学科

- ・久保晏奈, 大川祐世, 増山祥子, 山下仁. 慢性腰痛と片頭痛に対する鍼治療における臨床的経穴特異性: システムティック・レビューおよびメタアナリシス. 日本統合医療学会誌. 2021; 14(1):32-44.
- ・古瀬暢達, 山下仁. 鍼灸安全性関連文献レビュー2016～2019 年. 全日本鍼灸学会雑誌. 2021; 71(4):245-264.
- ・古瀬暢達, 山下仁. 灸に関する有害事象の文献レビュー. 日本東洋医学系物理療法学会誌. 2021; 46(2):100-114.
- ・中原英博, 伊藤剛, 宮本忠吉. 大学男子バレーボール選手の姿勢変化に対する循環調節機能. 関西臨床スポーツ医・科学研究会誌. 2021; 30:1-4.
- ・仲村正子, 松熊秀明, 辻涼太, 堀川奈央, 脇英彦, 鍋田智之. 雀啄術が筋硬度に及ぼす影響の超音波診断装置による検討・筋膜および筋中での比較. 森ノ宮医療大学紀要. 2021; 15:8-21.
- ・阿部秀高. インクルーシブ教育システムの構築とその必要性～人・場所・心をつなぐ指導支援の在り方. 人間教育学研究. 8.
- ・鍋田智之, 辻丸泰永, 堀川奈央, 脇英彦. 上顎最後臼歯後方の歯肉に対する微細突起刺激が僧帽筋の硬度および肩こりに及ぼす影響. 日本統合医療学会誌. 2021; 14(2):21-114.
- ・玉木奈美, 久下浩史, 辻涼太. 鍼灸施術とフェイシャルスキンケア併用による顔の自己満足度の効果. 全日本鍼灸学会雑誌. 2021; 71(4):220-228.

大学院

- ・森家望, 米谷亮, 竹内明子, 三瀬雅史, 高野博徳, 波多野弥生, 遠藤容子, 奥村徹, 水谷太郎, 吉岡敏治. COVID-19 パンデミックに伴う生活様式の変化が急性中毒事故の発生状況に及ぼした影響. 中毒研究. 2021; 34: 315-320.

⑨競争的研究資金獲得状況（文部科学省科学研究費助成事業-科研費-）

<新規>

- ・基盤研究(C) 大西 英雄「非密封放射性線源の取り扱いに関する体感型 VR 学習支援システムの開発と脳科学的評価」
- ・基盤研究(C) 関根 将「臨床検査技師養成のための e-learning を用いた寄生虫学教育プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 松崎 伸介「糖尿病における小胞体ストレス応答と SUMO 化」
- ・基盤研究(C) 外村 昌子「感染予防対策と ICT を活用した介護予防プログラムの開発」
- ・基盤研究(C) 由利 緑巳「日本版リエイブルメントモデル」の構築に向けた IADL 障害評価表の開発研究」
- ・基盤研究(C) 中原 英博「鍼刺激が運動時呼吸循環応答及び運動パフォーマンスに及ぼす短期的・長期的効果の検証」
- ・基盤研究(C) 佐野 加奈絵「形態的・機能的特徴からひも解く高齢者の骨格筋調整機序の確立：健康長寿社会に向けて」
- ・基盤研究(C) 中沢 一雄「位相シンギュラリティに基づく心房細動のダイナミクス変容とロバスト性に関する研究」
- ・若手研究 仲本 正美「VR を用いた座位での選択反応リーチ課題が高齢者の歩行時の足関節機能に及ぼす影響」
- ・若手研究 辻 義弘「造血能向上を図り慢性腎臓病患者の機能性鉄欠乏の改善に効果的な運動プログラムの開発」

<継続>

- ・基盤研究(C) 増山 祥子「がん緩和ケアとしての鍼の応用可能性：歴史的対照群との比較およびナラティブの評価」
- ・基盤研究(C) 山下 仁「非薬物療法の効果量推定を阻害する対照群の異質性に関するシステマティック・レビュー」
- ・基盤研究(C) 小西 由起子「再就職看護師の組織社会化に関する研究」
- ・基盤研究(C) 久木元 由紀子「医療系学生に対する終末期ケア多職種連携教育プログラム開発と効果」
- ・基盤研究(C) 徳島 佐由美「重症心身障害児のリロケーションを支援する在宅レスパイトプログラムの開発と検証」
- ・基盤研究(C) 稲田 慎「多階層 3 次元心臓モデルを用いた不整脈誘発性・持続性の評価に関するインシリコ研究」
- ・基盤研究(C) 阿部 秀高「医療専門職との連携によるインクルーシブ教育実践カリキュラム構想に関する研究」
- ・基盤研究(C) 仲村 正子「超音波診断装置を用いた教材開発」
- ・基盤研究(C) 岡田 公江「正常妊娠経過の初産婦における妊娠初期の睡眠の質と妊娠末期の血圧上昇との関連性」
- ・基盤研究(C) 川畑 浩久「廃用性関節拘縮における RA 系の役割：高齢者 ADL 維持への新戦略」（延長）
- ・基盤研究(C) 齋藤 雅子「JNCAST を基に開発した「不妊治療後母子相互作用促進プログラム」の有用性検証」（延長）
- ・基盤研究(C) 白井 文恵「在宅における気管内吸引カテーテルの再使用と呼吸器感染症発生との関連の細菌学的検証」（延長）

- ・基盤研究(C) 佐野 加奈絵「超スマート社会実現に向けた高齢者の骨格筋調整メカニクスの解明」(延長)
- ・基盤研究(C) 中原 英博「最新トレーニング理論に基づく革新的運動プログラムのアスリートへの応用」(延長)
- ・基盤研究(C)伊津美 孝子「医療ビッグデータ時代における看護の「見える化」推進 e ラーニングシステムの開発」(再延長)
- ・若手研究 東 泰弘「高次脳機能障害患者のトイレ動作尺度の開発とトイレ動作に影響を与える因子の解明」
- ・若手研究 小川 泰弘「統合失調症における病識の背景要因の解明および要因に基づく新しい治療戦略の構築」
- ・若手研究 中西 一「パーキンソン病患者の食事、歯磨き時の視線分析～動作が行いやすい視覚環境の提案～」
- ・若手研究 林 真太郎「高齢者の転倒予防自己効力感と身体能力の自己認識からみるリハ介入の工夫」
- ・若手研究 信江 彩加「ヒト全身反応時間を決定する中枢・末梢神経系の可塑性の解明」
- ・若手研究 木内 隆裕「片側上肢の運動がもたらす反対側上肢への運動プライミング」
- ・若手研究 澤田 優子「ハイリスク出生コホートに基づく当事者主体の発達支援プログラムの開発評価」
- ・若手研究 堤 真大「関節包」から考える股関節鏡治療革新に向けた解剖学的基盤研究」
- ・若手研究 工藤 慎太郎「ランニング障害を引き起こす足部 type の解明・足部機能に基づく足部分類の開発」
- ・若手研究 熊野 弘子「近世における中国医学の診断・治療理論と診察法の受容」
- ・若手研究(B) 関口 敏彰「地域在住高齢者の健康寿命延伸に資する腎機能保持を考慮した栄養摂取量の検討」(再延長)
- ・研究活動スタート支援 信太 宗也「心不全リスク定量評価に向けた補助人工心臓圧流量推定に基づく動脈硬化検査法の開発」
- ・研究活動スタート支援 山畑 飛鳥「VR を用いた診療放射線技師養成教育におけるロールプレイ学習に関する検証」
- ・研究活動スタート支援 辻 義弘「自律神経機能安定化による血液透析患者の身体的な機能改善および QOL の向上」(再延長)
- ・研究活動スタート支援 国宗 翔「下肢の感覚障害を有する高齢者における障害物跨ぎ動作の視覚運動制御」(延長)
- ・国際共同研究強化 松崎 伸介「痴呆性疾患におけるゴルジ体制御因子 SCYL1 の意義の解明」(延長)
- ・挑戦的研究(萌芽) 山本 浩一「胸部単純エックス線写真からの骨粗鬆症判定システムの構築とその応用」
- ・ひらめき☆ときめきサイエンス 辻 義弘「人工腎臓 ミクロの世界を体験しよう！」

⑩ 令和3年度連携協定

令和3年6月7日 西日本旅客鉄道株式会社近畿統括本部大阪支社 … 相互連携
 令和3年8月23日 NTTドコモレッドハリケーンズ大阪 … 相互連携
 令和3年9月21日 放送大学大学院 … 単位互換連携

⑪ 社会貢献事業

- ・新型コロナウイルスワクチン職域接種

新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施した。令和3年6月28日～10月1日の期間で、約6900名へワクチン接種を行った。本学の学生、教職員だけでなく、咲洲地区に

所在する企業・団体や一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会に加盟する学校の学生や教職員を含む計 52 団体から参加があった。また、職域接種の記録動画「職域接種 story movie」を作成し、YouTube で公開した。

・市民公開講座

日時	テーマ	講演	タイトル	参加人数
6 月 24 日 (木) 14 : 00 ~ 16 : 00	睡眠障害	基調講演	不眠症	65 名
		講演Ⅰ	不眠症の鍼灸治療	
		講演Ⅱ	睡眠時無呼吸	
		講演Ⅲ	不眠症のケア	
10 月 31 日 (日) 13 : 30 ~ 15 : 30	がん診療の最前線 3	基調講演	乳がん	38 名
		講演Ⅰ	がん診断法の進歩	
		講演Ⅱ	がん患者のケア	
		講演Ⅲ	がん患者のリハビリ	

2. 森ノ宮医療学園専門学校

2021 年度は 2020 年度から続くコロナ禍により、中期経営計画に掲げる事業の全てを実施することは難しかった。専門学校の大きな課題である、「定員充足率の向上」「国家試験合格率の向上」を中心に 2021 年度事業は実施した。定員充足率の向上のために、入学広報課と教務課が協力して、オープンキャンパス内容の充実などを行ったが、2020 年度に比べて募集人数を下げることとなってしまった。その要員として、コロナ禍・合格率の低迷・教育訓練給付制度などの変更が掲げられる。国家試験合格率の向上については、教務課で 1 年生から 3 年生を対象として、診断テストや模擬試験の実施、課題ドリルの作成、ゼミ動画の配信などを行った。例年、国家試験直前には成績不良者を対象とした講座を実施しているが、1 月からの感染拡大により専門学校はハイブリッドにより授業形態を取らざるを得ず、成績不良者に対して最後の取組を実施することができず、合格率を上げることができなかった。施設・設備については、コロナ禍でも学生の学習を止めないための取組を実施した。1・2 年生の登校時間の制限、3 年生の自習室の確保、欠席者が動画を視聴できるように動画機材の拡充などを行った。

(1) 実施事業の概要

2023 年度までの 5 ヶ年計画である第 2 期中期経営計画の基本目標として「関西圏トップの実現」を掲げ、初年度となる 20201 年度については、以下の事業を展開した。

1) 教育事業の概要

① 在学生および卒業生への教育活動およびサポート活動

【鍼灸学科】

- ・ 昨年は 6 月に実施していた入学前課題のチェックテストを今年度は例年通り実施することができた。
- ・ ゼミについて、実技ゼミやとくゼミは緊急事態宣言を除き対面にて実施した。学習関連ゼミは例年通り動画配信にて行った。昨年と比べ、ゼミなどもできる限り実施し、学校生活の充実を図った。それでも例年に比べると不十分であるため、卒業後も参加できるゼミ等を実施できるよう計画中である。
- ・ 学生の学習に対する悩みなどを早期に把握するために全学生に対し、年に 3 回以上の面談を実施しているが、学内滞在時間を短くするため 3 回は実施できなかった。昨年は電話面談であったが、今年度は対面にて実施することができた。
- ・ 1 年次より定期的、計画的に診断テストや模擬試験を実施することにより、早期に現状の把握を行っている。これにより、学習状況に問題のあると思われる学生に対してきめ細やかな対策を立てることができ、個々の学生はもちろん、全体的な成績の向上がみられた。
- ・ 1 年次からの定期テスト等の各種試験や面談の結果などを一覧で確認することができる学生カルテを作成し、2022 年度以降の指導に活用していく。
- ・ 従来から行っている鍼灸受療体験も引き続き継続している。また入学前に鍼灸を経験することにより職業理解を深めるためにみどりの風鍼灸院での入学決定者を対象に入学前受療体験を実施している。
- ・ 2020 年度から各学期の定期試験終了後に各期の授業内容を振り返るための期間を設けることとした。特に定期試験で躓いてしまった内容をきちんと復習する機会となっており、その後の年次進行に伴う理解不足の増大を解消することができている。しかし、本試験後に実施するため、その内容を聞いて本試験に真面目に取り組まずに追試験

で合格すれば良いという考えを持つ学生が一部にみられた。そのため振り返りについての位置づけについて今後検討していく必要があると考えられた。

- ・2018年度入学生より各期における定期試験不合格から未修得単位に至る過程を大きく改善し、これまでは定期試験後の追試験不合格で未修得単位としていたものを、追試験不合格後に補講を挟んで追々試験を行うこととした。それでもなお不合格の場合は年度末に実施される未修得単位試験に合格できなかった場合のみ留年となることとした。一見試験が増えることとなり学生の負担が増える様には見えるが、実際はそうではなく、むしろ理解不足を解消するよい機会となっており、学修内容を理解したうえで進級できるようになっている。2021年度においては1年生での3名の留年者が発生したが、多くの学生は複数の試験を重ねることで成績不振者の学修進度もこれまで以上に把握することができるようになっている。

【柔道整復学科】

- ・救急救命法を習得するために日本赤十字の救急法講習を実施した。
- ・2021年度入学生より各期における定期試験不合格から未修得単位に至る過程を大きく改善し、これまでは定期試験後の追試験不合格で未修得単位としていたものを、追試験不合格後に補講を挟んで追々試験を行うこととした。
- ・2020年度から各学期の定期試験終了後に各期の授業内容を振り返るための期間を設けることとした。定期試験での躓きを復習する機会としているが、テスト問題をすべて解説される授業もあるため、追試験該当者が本試験のときから振り返りでテスト範囲を確認して勉強するというパターンもみられるため、振り返り授業のあり方について検討をしていく必要があると思われる。
- ・3年生アドバンスコースにおいてアメリカ研修を開催していたが、新型コロナウイルスの影響により実施できなかったため、返金することとなった。TEXAS A&M 大学 commerce 校にてスポーツ現場での外傷評価や処置だけでなく、医療現場との関わり方、コミュニケーション能力などについて学習した。学生の大きな成長も実感する事ができた。
- ・附属クリニックにおける臨床実習を1年生・2年生に実施した。
- ・夏季特別講座を2年ぶりに対面にて実施した。1年次は身体の基本を知る解剖学（骨学）および実技の復習、2年次は医療面接・評価について、3年生は関係法規・実技・解剖学（骨・筋）について実施した。
- ・欠席者への早期連絡、成績不振者の早期面談・指導を実施し、出来るだけ早い段階で当該学生に対してフォローを行うようにした。
- ・解剖学・生理学・柔道整復総論などのゼミ動画の配信を行った。
- ・2019年には卒業生・在校生を対象とした臨床塾を開催していたが、新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。
- ・過去の成績データ（学科全体）から、学生個々の成績（現状）を分析するデータを作成し、個別指導に使用した。
- ・中期より実技ゼミを実施した。

② 国家試験対策

【鍼灸学科】

- ・2017年度入学生より、入学前課題・入学前課題チェックテスト・各期における診断テスト・模擬試験等を実施し3年が経過したが、2019年度の3年生が卒業率・国家試験合格率ともに過去10年間でもっとも高い結果となっていたが、2021年度は2020年度み比べると大幅に下がる結果となった。原因を解決し、次年度に向けて取り組みたいと思う。

- ・1 年次から使用できるオリジナルの国家試験対策ドリルの作成を行い、学生が現在の理解度を確かめられるようにした。2019 年度に主要な科目のオリジナルドリルが完成し、2021 年度に冊子として渡せるように加筆・修正を行った。
- ・3 年生の成績不振者を対象とした特別強化授業を実施した。2020 年度は 8 月より週 3 回実施していたが、2021 年度はコロナの影響で不定期開催となり、十分に実施することができなかった。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして実施している森ノ宮塾を動画配信に切り替えた。聴講制度を利用しやすくするよう費用を下げるなどして、聴講への促しを行った。聴講生の中から合格者も出て、一定の効果がみられた。

【柔道整復学科】

- ・2020 年度より本格的に 1 年次からの成績分析を実施するようになったため、まだ一定の成果を得るには至っておらず、2021 年度の卒業率・合格率も低調であった。3 年間の積み重ねにより国家試験合格に結びつくため 1 年次から計画的な取組を実施していきたい。
- ・3 年生を対象に課題ドリルを作成、弱点の把握・克服、自学自習ができる教材提供を行った。
- ・各学年において、前期・中期・後期と診断テストを実施した。また、夏休み前と春休み前に 1・2 年生に模擬試験を実施し、当該学年での学習状況の把握を行った。
- ・柔道整復学校協会の模擬試験を実施した。自校作成の問題だけでなく視点の違う問題を解いていくことで、国家試験合格に向けての幅広い問題対応力が身に付いた。
- ・国家試験不合格者へのサポートとして実施している森ノ宮塾を動画配信に切り替えた。聴講制度を利用しやすくするよう費用を下げるなどして、聴講への促しを行った。聴講生の中から合格者も出て、一定の効果がみられた。

③ 社会貢献

【鍼灸学科】

- ・例年は卒業生を対象とした森ノ宮鍼灸セミナー「臨活（「臨」床に「活」用できるセミナー）」を行っているがコロナにより実施できなかった。

【柔道整復学科】

- ・森ノ宮柔道整復学術集会を例年開催していたが新型コロナウイルスにより実施することができなかった。

④ 教員研修

【鍼灸学科】

- ・例年、東洋療法学校協会の教員研修会・関西地区の教員研修会に参加していたが、2020 年度は実施されなかった。

【柔道整復学科】

- ・授業などの質を向上させるために、各教員がそれぞれ「研究」「臨床」「トレーナー」などの活動に取り組んでいる。教員の資質向上に加えて、研究結果や実際の症例を授業に盛り込むことで、教科書だけでは学べない幅広い内容の授業が展開できている。

2) 事務関係事業

専門学校事務組織においては、昨年度に引き続き業務改善および効率化について各部署で取り組んだ結果、以下の主要事業を行った。

【教育支援部】

- ・「アロマコーディネーター資格取得講座」については、春季講座、秋季講座、各 9 名が受講した。また、森ノ宮医療大学助産学専攻科の必修科目としての開講は例年通り開講した。

- ・ NESTA パーソナルトレーナー資格養成講座を開催し、12 名（定員 20 名）が受講した。
- ・ 例年通り、日本赤十字血液センターの献血活動に協力した。2022 年 1 月 31 日（月）に献血車が来訪。25 名が採血を行った。
- ・ 3 月 25 日、26 日に開催された近江杯高校柔道大会に教員 4 名、職員 1 名を派遣し救護活動を行った。新型コロナウイルスの影響により柔道整復学科学生の救護活動見学・補助は実施できなかった。
- ・ 在阪の柔道整復養成校の同窓会組織が合同で活動する大阪柔道整復師養成校合同同窓会（大阪柔整合同同窓会）に参加した。
- ・ 連携協定を締結している社会体育専門学校の医療特修コースの学生 4 名がダブルスクール入学審査を受け、2021 年 4 月から鍼灸学科夜間コース、柔道整復学科夜間コース各 2 名が入学することとなった。

（葉山）

【教育支援部：調査課】

- ・ 京都治療院の運営及び実習施設としての役割を担うためのフォローを行う。
- ・ コロナ禍で中止していた「第 19 回近江杯柔道大会」が 3 年ぶりに再開され、教務課と協働し、大会時の外傷救護対応をするとともに、柔道整復学科の教育的活用の情報収集にあたる。
- ・ 継続している古本募金活動については、例年よりも多く収集できたものの、本年もコロナ感染防止の観点から協力会社が古本回収を中止したため募金収入はなかった。
- ・ 校地購入にあたり、当該土地の情報収集等にあたる。（成田）

【学術部】

- ・ 学術・研究活動に対する支援として前年度実績に基づいて個人学術研究費を適切に配分した。今年度も昨年度に続き新型コロナウイルスの影響を受け、全体として低調な利用となった。
- ・ 昨年度に続き新型コロナウイルスの影響により、以前のように研究活動が行うことができず、学会については参加の場合もオンライン参加が主体となった。
- ・ 倫理委員会の運営においては、2016 年度より研究倫理審査も開始しており、適切な倫理審査が行われている。

（葉山）

【図書室】

- ・ 年度の上半期および下半期に教職員を対象に図書購入リクエストを実施した。
- ・ 図書委員会を 2021 年 9 月 6 日（月）と 2021 年 12 月 20 日（月）に開催し、購入図書を決定したほか、今後の図書室の運営、活動について検討を行った。
- ・ 図書委員会での決定を受けて新規図書の購入を行った。
- ・ 図書室利用者からの図書購入リクエストを随時受け付け、月毎に図書委員会の審査を経て承認された書籍を購入した。
- ・ 校友会から図書購入費として 40 万円の補助を受け、図書購入を行った。
- ・ 図書室会議を月に一度開催し、新規図書購入リストの作成や図書室運営の改善について検討を行い、随時実施した。
- ・ 地下倉庫や図書室内に置かれていた段ボールに入っていた図書について精査を行い、不要な図書については順次廃棄を行った。また図書室書架の書籍についても同様に精査の上廃棄を行った。
- ・ 閲覧用の机にアクリル板の設置を行い、利用者の利便性、快適性の向上を図った。
- ・ 蔵書点検も滞りなく行われた。

（葉山）

【学務課】

- ・2021年度の学生健康診断については外部医療機関に出張健康診断を依頼の上、10月1日に実施した。当日に欠席した学生の健康診断は10月末までに個別に行い、最終的な受診率は91.4%であった。
- ・教育訓練給付制度利用者に対し、申請書類の発行を行った。
- ・日本学生支援機構奨学金を始めとする奨学金を利用する学生への支援を行った。
- ・5月からの約2カ月間、「春の就職フェア」として、ご協力いただいた求人先約320院の求人情報を本校舎1階に掲示した。また冊子化を配布した。
- ・10月3日に毎年恒例の就職相談会を開催した。参加治療院約44院、卒業生を含む参加学生約30名であった。
- ・卒業後半年を経過した卒業生に郵送にて進路調査を行い、2020年度卒業生各人の現状を確認することができた。
- ・就職を希望する学生への就職支援を行った。また、治療院等の就職先からの求人票を受付、学生に公開した。
- ・毎年実施している次年度入学予定者を対象とした入学前通信教育については57名の利用があった。そのうち早期合格者特典として履修した入学予定者は45名であった。
- ・例年行っている授業評価を、学生による授業アンケート、教職員による授業見学、担当教員による授業点検評価を1枚のレポートにまとめる方法にて実施した。また、学生による授業アンケートへの本校からの回答として2020年度授業評価の最終結果を取りまとめた報告書を学生向けに公開した。
- ・2022年1月23日に2022年度入学予定者を対象としたプレスクールを開催した。両学科併せて47名の参加があり、アンケート結果では満足度95.7%であった。
- ・はり師きゅう師国家試験および柔道整復師国家試験の出願のサポートを行った。
- ・2022年度より教育課程を変更するため学則の変更を行い、所轄庁である大阪府に申請を行った。
- ・みどりの風保育園の利用数については、恒常的に利用していた学生の利用が無くなったため2020年度に比べると減少した。
- ・学生生活満足度調査を実施した。
- ・2020年度自己点検・自己評価報告書を作成しWebページにて学生向けに公表した。また、自己点検・自己評価報告書を基に学校関係者評価を行った。

(学務課長：矢納)

【管理課】

- ・事務局にて冷凍食品（パスタ、ご飯類）の販売を開始した。
- ・飲料自動販売機の入替えを行った。
- ・セブンイレブンに代わり、K&Kフーズ、ブルボンの食品自動販売機を導入した。
- ・北館6F・5Fの空調機を更新した。
- ・アネックス4Fホール、柔道場、1Fサーバー室の空調機の修繕を実施した。
- ・605教室の天井排煙窓の改修を実施した。
- ・事務局内の管理課、総務課、柔整科、入試の各キャビネットの入替えを実施した。
- ・1F玄関扉、理事長室の電気錠を更新した。
- ・使用期限切れ消火器の入替え、破損標識板の更新、連結送水管耐圧試験等消防設備の改修を実施した。
- ・平屋運動療法センターの窓2カ所を引き違い窓に入れ替えた。
- ・地下駐車場の鉄門扉の修繕を実施した。
- ・505教室のプロジェクターを更新した。
- ・本校舎階段踊り場、地下エレベーターホール、地下ゴミ倉庫の照明のLED化を実施した。
- ・各教室、2Fミーティングルーム、学生相談室に有線LANを設置した。
- ・経年劣化で故障した2階女子トイレのドアクローザーを交換した。

- ・ 自家用電気工作物 年次停電点検を実施した。
- ・ 各種消毒剤（エタノール、次亜塩素酸水）、ペーパータオルを欠品することなく確保した。
- ・ コロナ禍用の「施設貸出要綱」、「利用者マニュアル」を作成した。
- ・ 12月より場所・時間・人数等条件付きで施設貸し出しを再開した。
- ・ 東成警察からの依頼により、「大阪ランニングパトロール」に参加した。
- ・ コロナの影響により学生の参加はなかったが、東成消防署による立ち会いのもと、教職員を対象に消防訓練を実施した。

（管理課長：入江）

【入学広報課】

- ・ コロナ禍の中、感染予防対策を講じたうえで以下の校内イベントを実施した。
オープンキャンパス、学校説明会、AO 入試対策講座、授業見学会、個別相談会など
- ・ 学生募集ツールとして以下の広報誌を作成した。
学校案内、入試要項一式、高校生／社会人向け季刊誌、イベント告知DM、女性特集リーフレット、鍼灸&柔整分野リーフレット、イベントガイドなど
- ・ WEB サイト運営として、ページ更新／新規コンテンツ制作、新着情報の発信、動画制作などを行った。また、検索サイトで上位表示されるための SEO 対策を常時講じた。
- ・ SNS（インスタ、Facebook、Twitter、LINE）から情報の発信を実施した。
- ・ リスティングやリターゲティング、SNS での WEB 広告を展開した。
- ・ 高校訪問、高校ガイダンス／出張講義（AED 講習等）を実施した。
- ・ 進学媒体（進学情報誌、進学サイト）へ広告出稿を行った。
- ・ 広く本校の認知度向上させるために、以下の対策を講じた。
ならテレビ／ならドットFMへの番組出演、フリー冊子「ここ＋から（PLUS）」発行、Osaka Metro 車内アナウンス広告、新聞広告掲出 など
- ・ 教育支援部と協働で、NESTA PFT 認定講座、アロマ講座、スポーツ臨床センター開設イベントの広報・運営を行った。

※事業成果データ

- ・ 資料請求者数 5,536 件（昨年比 84%）
- ・ 公式サイト訪問者数 138,968（昨年比 181%）
- ・ イベント来校者数：506 名（昨年比 95%）
- ・ 志願者数 162 名（昨年比 93%）
- ・ 入学者数 140 名（昨年比 88%）

（入学広報課：石塚）

(2) 事業成果の概要

①在籍学生数

(単位：人)

2022 年 4 月 1 日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学 科	昼	69	1	0	71	1	1	74	2	1	214	4	2
	夜	15	2	0	15	2	1	19	2	2	49	6	3
柔道整 復学科	昼	38	1	0	39	0	0	35	2	0	112	3	0
	夜	23	1	0	19	1	1	11	0	0	53	2	1
合計		145	5	0	144	4	3	139	6	3	428	15	6

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2021 年 4 月 1 日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学 科	昼	80	3	0	75	2	1	58	2	1	213	7	2
	夜	17	1	1	20	2	2	20	2	2	57	5	5
柔道整 復学科	昼	48	0	0	36	0	0	35	9	0	119	9	0
	夜	20	2	1	13	0	1	20	0	0	53	2	2
合計		165	6	2	144	4	4	133	13	3	442	23	9

* 留年および休学は在籍者数の内数

(単位：人)

2020 年 4 月 1 日現在		1 年			2 年			3 年			合計		
		在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)
鍼灸学 科	昼	85	0	0	62	1	1	57	1	1	204	2	2
	夜	20	0	0	23	0	1	16	0	0	59	0	1
柔道整 復学科	昼	40	0	0	27	0	0	51	5	1	118	5	1
	夜	14	0	0	20	2	0	17	2	0	51	4	0
合計		159	0	0	132	3	2	141	8	2	432	11	4

* 留年および休学は在籍者数の内数

②年度別退学者数

(単位：人)

年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
退学者数	38	42	26	25	27
退学者比率	7.7%	9.2%	6.0%	5.8%	6.1%
在学生数	492	457	430	432	442

③志願者数

(単位:人)

入学年度		2017	2018	2019	2020	2021
学科	コース	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
鍼灸	午前コース	56	42	46	55	39
	昼間コース	18	33	39	42	38
	夜間コース	20	21	27	25	16
柔整	選択コース	23	32	19	14	24
	昼間コース	26	26	21	29	17
	夜間コース	11	22	24	22	29
合計		185	154	176	187	163

④国家試験合格率

<2021 年度>

はり師きゅう師国家試験 (第 47 期)

国家試験成績		2021 年度 (第 30 回) 2022 年 2 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	67	54	80.6%
	きゅう師	67	55	82.1%
全現役受験者	はり師	3,059	2,761	90.3%
	きゅう師	3,059	2,795	91.4%
本校全受験者	はり師	101	59	58.4%
	きゅう師	97	59	60.8%
全受験者	はり師	3,982	2,956	74.2%
	きゅう師	3,892	2,963	76.1%

柔道整復師国家試験 (第 20 期)

国家試験成績		2021 年度 (第 30 回) 2022 年 3 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	40	29	72.5%
全現役受験者	柔道整復師	3,125	2,531	81.0%
本校全受験者	柔道整復師	82	35	42.7%
全受験者	柔道整復師	4,359	2,740	62.9%

<2020 年度>

はり師きゅう師国家試験 (第 46 期)

国家試験成績		2020 年度 (第 29 回) 2021 年 2 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	はり師	62	55	88.7%
	きゅう師	62	56	90.3%
全現役受験者	はり師	2,914	2,558	87.8%
	きゅう師	2,914	2,597	89.1%
本校全受験者	はり師	96	57	59.4%
	きゅう師	93	58	62.4%
全受験者	はり師	3,853	2,698	70.0%
	きゅう師	3,797	2,740	72.2%

柔道整復師国家試験（第 19 期）

国家試験成績		2020 年度（第 29 回）2021 年 3 月実施		
		受験者	合格者	合格率
本校現役受験者	柔道整復師	52	38	73.1%
全現役受験者	柔道整復師	3,165	2,709	85.6%
本校全受験者	柔道整復師	93	45	48.4%
全受験者	柔道整復師	4,561	3,011	66.0%

⑤求人状況

・求人倍率

	鍼灸学科 (はり師・きゅう師)	柔道整復学科 (柔道整復師)
求人数 (人)	3,154	3,223
求職者数 (人)	29	21
求人倍率 (倍)	108.8	153.5

3. 森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール

2021年度から学校名を森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクールにし、介護福祉学科をスタートした。日本語学科、介護福祉学科でコロナ対策をしつつ授業を行った。学生に対して、コロナ禍での対応を指導した。
新規で学生寮をスタートさせた。

【教務関係 日本語学科】

①授業

- ・非漢字圏の学生を対象としているため、4コマ授業のうち1コマは漢字の授業を行い、漢字への苦手意識の克服と定着を図るためのカリキュラムを作成した。
- ・前日勉強した内容のチェックテストを翌日に行い、既習事項の定着を図った。
- ・2021年度生は新型コロナウイルスの影響で入国できなかったため、現地とZoomをつなぎ、オンライン授業を実施した。

②成績

- ・年4回の定期試験を実施
学生の学力に合わせ、アプリを利用しオンラインの自宅学習を行った。

③出席状況

- ・前年度同様、タイムカードを利用し、学生が登校した際に打刻させ出席管理を行った。授業開始時刻を過ぎても打刻していない学生には、すぐに電話連絡を入れ出席管理を徹底した。
- ・欠席する際は、必ず事前に本人が連絡するよう指導し、無断欠席をゼロにできた。
- ・Zoomで授業に参加している学生にも欠席する場合は授業開始10分前までに担任に欠席のメールを入れるよう指導した。

④面談

- ・新型コロナウイルスの影響で、入国できていない学生の面談はできなかったが、問題を抱えている学生にはZoomを利用し個別で面談を行った。
- ・入国している学生は個々の悩みを把握できるよう、担任と事務課の職員で面談を行い、学習・アルバイト状況に問題があると思われる学生には早期に対応することができた。

⑤授業アンケート

- ・年2回入国している学生にアンケートを実施し、授業満足度を調査した。アンケートは、「わかりやすさ」のみを問う形式とし、評価は3段階とした。(前期：2021年6月、後期：

2021 年 1 月に実施)

- ・アンケートの結果を受け、学生の意見を把握し、全教員に対し理事面談を行った。

⑥JLPT 対策

- ・2020 年 4 月生 15 名、2020 年 10 月生 5 名全員が 2021 年 7 月と 12 月に実施された JLPT (日本語能力試験) を受験。

通常授業より JLPT 対策の授業を取り入れ、宿題として各科目の課題をモノグサ (アプリ) で与え、全問正解するまで問題を解かせた。また、試験 3 週間前には JLPT 対策週間を設け、受験レベル別にクラスを分け、問題集を利用し試験問題に慣れるよう繰り返し問題を解かせた。

試験の 3 カ月前から JLPT の模擬試験を 6 回実施し、模試の成績が悪い学生には補講を実施した。(午前の学生は授業開始前の 30 分、午後の学生は授業終了後実施)

⑦J-TEST (1 年に 6 回、奇数月に開催)

- ・2021 年 12 月に開催された JLPT で N3 に合格できなかった学生 9 名は 3 月の JTEST を受験させた。JLPT の問題は全てマークシートだが、JTEST はマークシートと筆記も混在しているため、JTEST の問題に慣れるよう 1 月から 3 月の受験日まで過去問を利用し、繰り返し問題を解かせた。

⑧教員研修

- ・2 カ月に一度教員の勉強会を実施し、各科目や、Zoom 授業の指導法、学生の成績等の共有を行った。

2021 年 7 月 JLPT 受験結果

2021 年度第 1 回日本語能力試験 (2021 年 7 月 4 日実施)				
	受験者数	合格者数	合格率	国内合格率
N3	10	7	70.0%	43.8%
N4	10	8	80.0%	48.3%

2021 年 12 月 JLPT 結果

2021 年度第 2 回日本語能力試験 (2021 年 12 月 5 日実施)				
	受験者数	合格者数	合格率	国内合格率
N2	7	2	28.5%	29.2%
N3	11	3	27.2%	34.5%

N4	2	0	00.0%	35.8%
----	---	---	-------	-------

2021 年 3 月 J.TEST 受験結果

2021 年度 J.TEST (2021 年 3 月 13 日実施)			
	受験者数	合格者数	合格率
D-E レベル	9	0 名 (N3 レベル)	00.0%
		5 名 (N4 レベル)	55.5%

【教務関係 介護福祉学科】

① 授業

- ・入学直後より各学生の個々の日本語レベル、授業の理解度の把握に努めた。
- ・日本語能力が N3 以下、母国では勉強習慣が少なかった者、勉強方法がわからない者も多く、学習習得段階が様々であった。学習習得段階に応じた対応を行うために、1 年前期試験結果でクラス分けを行い、それぞれの学習の進捗や理解度に合ったクラス編成を行った。
- ・習得度の高いクラスに対しては、介護の語彙など基礎知識の理解を確認できるよう授業の工夫を行い、国家試験問題の 5 択問題にふれてもらい設問に慣れてもらえるよう指導を行った。国家試験合格に向けモチベーションの維持を課題としていきたい。
- ・習得度の低いクラスに対しては、授業内容を理解できない場合が多く、最低限度理解しなければいけないこと等、学習内容から重要な観点を抜き出し、その理解度を確認しながら指導を行った。卒業までに、日本語と介護の基礎知識の理解を課題としたい。
- ・コロナ禍で対面授業の減少は避けられなかったが、使用する資料を教員が、事前に学生寮などに配達を行い、対面授業再開時にオンライン授業での理解度の確認を徹底し、ZOOM を使用したオンライン授業は概ね順調に行えた。

② 出席状況

- ・学科の携帯電話と学生全員をラインで繋げ、欠席、遅刻時の事前連絡を徹底するようにオリエンテーションで指導を行った。一度だけのオリエンテーションで理解するという事が難しく、必要に応じて何回かに分けて行い、個人面談などにより個別のフォローを行った。
- ・欠席が多い学生に対しては、関係する連絡先をできる限り多く把握しておくように努めた。

③ 個人面談

- ・クラス担任が、入学直後と後期授業開始時の 2 回行った。個人面談において、入学時は、まず、個々の宗教的ニーズを聞き取り対応策の検討を行った。また、面談を通して授業内容や学習上の悩みを聞き取り、それ以外の悩みに対しては、教職員全体で共有し検討した。

④ 健康管理

・感染症対策として、登校時に検温と声掛けによる体調確認を徹底した。体調不良者には、聞き取りを行い各科への受診を促した。受診前に教員より病院に「留学生であり日本語が不十分」である事を伝え、事前に電話による問診などをサポートした。また、保険料未納者に対して、健康保険証の必要性を指導した。

⑤ その他

・不法在留者（失踪）が1名あった。今後このようなことがないように、学生の様子を絶えず観察し、学生に対し不法滞在についての対応などの説明を必要に応じて何度も行い、今後、不法滞在者を出さないよう教職員間で徹底したい。

・また、月に一度、資格外活動等のアンケート調査を行い、資格外活動の状況等を把握した。特に、資格外活動許可の要件（週28時間等）が十分に理解できていない者には、個々の日本語レベルに応じた説明を行った。アンケート調査を行う際、住民税の支払い、健康保険料の支払いに関しても随時、確認を行った。

【事務関係】

① 寮

・ポートタウン西の賃貸アパートの一部を借り上げ、電化製品や Wi-Fi 等、生活用品を揃え、ランゲージスクールの学生寮として運営している。

・大阪港第一寮として、80名程度収容できる借り上げ寮（グッドフォーチュン大阪港）が、2021年4月より稼働を開始した。

・2022年4月に向け、新たに大阪港第二寮として、120名程度収容できる借り上げ寮（ウエスタンモースト天保山）を借り上げ、学生の受け準備を行った。

寮名	収容定員
ポートタウン（2019年3月～）	70名
大阪港第一（2021年4月～）	80名
大阪港第二（2022年4月～）	120名

② 経理

・在学生や新入生の学費、寮費の請求や支払い業務、督促等を行った。

・銀行口座作成の手続きサポートや手続きが完了するまでの間の寮費を事務課窓口で対応した。

・奨学金等の貸与施設へ学費の請求を行った。

③ 学生支援

- ・在学生や新入生に対し、キャリア共済事業団の学生傷害保険の加入手続きを行った。
- ・学生の病院診察や通院の付き添い、学生サービスとしてポケットークの導入を行い、学生が一人でも病院を受診できるようにした。
- ・アルバイト先と連携し、新入生採用、在学生の面談等アルバイトに関するサポートを行った。
- ・他の専門学校への進学希望者に対し、進路指導を行った。
- ・新入生に対し本学および南港病院にて健康診断を実施した。
- ・学生生活満足度調査を実施し、学生生活全般や学習状況の把握を行い、教職員内で共有することで業務改善を行っている。
- ・学生の経済問題に対する個別相談と助言を行った。
- ・退学学生に対する、進路相談と学費の支払い相談に対応した。
- ・奨学金貸与や修学資金貸付の連帯保証人をしてくださる介護施設の開拓を行った。
- ・新入生入国時にかかる空港出迎えや寮までの案内、住民登録や在留カード取得、印鑑作成、学生証の発行等のサポートを行った。
- ・年2回の在留カード更新に関する業務を行った。
- ・特定技能への切り替えのサポートを行った。

④ 学校行事

- ・介護福祉学科入学式を開催した。
- ・日本語学科卒業式を開催した。

⑤ その他

- ・ランゲージスクール教職員の福利厚生として Will 保険の加入手続きを行った。
- ・官公庁調査関係、物品購入、郵便関係、学務システム関係、学校の防火、施設管理等、総務全般業務を行った。

【広報、入試関係】

- ・東南アジア諸国の日本語学校、エージェントへの営業活動（ベトナム、ネパール、フィリピン、インドネシア、モンゴル、ミャンマー）
- ・本校にて、オープンキャンパスを実施し、介護福祉学科学生の募集活動を行った。
- ・本校および地方にて、日本語学校教員を対象に教員対象説明会を実施し、各日本語学校の学生の紹介依頼等、募集活動を行った。
- ・他の日本学校回りおよび電話掛け等を実施し、学生募集活動を行った。
- ・介護福祉学科入学を希望する受験生に対し、対面入試またはオンライン入試を実施した。
- ・日本語学科入学を希望する受験生に対し、オンライン入試を実施した。
- ・ホームページや SNS 等を活用し、学校の様子や在学生の学生生活がわかるよう、日々活

動内容の更新を行った。

- ・学内および外部向けパンフレット、募集要項等の印刷物の作成を行った。

【事業成果】

受験者数

	受験者数	合格者数
日本語学科	89 名	75 名
介護福祉学科	82 名	77 名

在籍者数（2021 年 3 月 31 日）

	人数
日本語学科	20 名
介護福祉学科	75 名

（未入国：日本語学科 70 名、介護福祉学科 2 名）

退学者数

	人数
日本語学科	2 名
介護福祉学科	6 名

4. みどりの風クリニック

新型コロナウイルスの陽性者が患者から発生していたが、院内クラスターとならないように感染対策を引き続き徹底し対応した。新型コロナウイルスの影響も若干改善へ向かい、連動して来院控えの患者増加に繋がったが、1月よりリハビリスタッフの離職者が複数名出たため、リハビリ患者数は頭打ちになった。コロナ禍で中止していた専門学校柔道整復学科の臨床実習、卒後臨床研修などは再開した。大学キャンパス内へのクリニック移転に向けワーキンググループを立ち上げ、順調に準備を進めている。

1) みどりの風クリニック診療時間

下記の通り診療業務を実施している。

(1) 整形外科

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	●	●	●	●	●
13:30～17:00	●		●	●	●

(2) 内科・循環器内科・漢方内科

	月	火	水	木	金
9:00～12:00	●	●	●	●	●
13:30～17:00	●	●	●	●	●

2) 新型コロナウイルスへの各対応

松尾医師を中心に、下記の通りクリニック全体で対応を実施した。

(1) 発熱外来の設置

職員用通路を簡易的に利用した発熱外来を設置し、発熱・感冒症状のあるコロナ疑いの患者を隔離し、防護服を着用し最低人員にて診療を行った

- ・実施期間：2021年4月～翌3月
- ・対応人数：患者46名

(2) 施設内での感染対策の徹底

- ・施設内全員マスク着用義務化
- ・アルコール拭き取り消毒の徹底
- ・換気の徹底
- ・待合椅子の間隔変更
- ・職員にゴーグル・エプロン・手袋の着用
- ・リハビリ患者のタオルを患者毎の交換
- ・患者・職員全員の毎日の検温、入り口に検温モニタの導入
- ・待合用新聞・雑誌等の回収

- ・受付にビニールシート設置

3) 健康診断・予防接種等の実施状況

下記の通り、当クリニックにおいて森ノ宮医療学園専門学校の学生に対する B 型肝炎予防接種、森ノ宮医療学園専門学校の実施基準による学生健診、また、厚生労働省で定められている教職員の健康診断等を法人からの依頼により実施した。

- (1) 学園教職員の入職時健診の受入
 - ・実施機関：2021 年 4 月～翌 3 月
 - ・実施人数：7 名（大学 5 名、専門学校 1 名、WLS1 名）
- (2) 学園教職員の定期健康診断の受入
 - ・実施期間：2021 年 6 月～翌 3 月まで
 - ・実施人数：18 名（診療所 18 名）
- (3) インフルエンザ予防接種実施
 - ・実施期間：2021 年 11 月 1 日～12 月 28 日まで
 - ・実施人数：325 名（一般患者・学生 154 名、大学教職員 143 名、WLS1 名、専門学校教職員 11 名、診療所職員 16 名）
- (4) 専門学校の学生健診の受入
 - ・実施日時：2021 年 10 月～11 月
 - ・実施人数：学生 8 名
(専門学校での健診日に受けられなかった学生のみ)
- (5) 専門学校の学生に対する B 型肝炎ワクチン予防接種
 - 1 回目 2021 年 11 月 1 日～11/26 まで 42 名
 - 2 回目 2021 年 11 月 29 日～12/31 まで 36 名
 - 3 回目 2022 年 3 月 22 日～3/31 まで 3 名

4) 臨床実習・卒後研修等の実施について

- (1) 森ノ宮医療学園専門学校 柔道整復学科 臨床実習

2021 年 10 月 11 日～2021 年 12 月 23 日

対象：柔道整復学科 1 年（昼・夜）、2 年（アド・昼・夜） 合計 80 名

リハビリテーション科での臨床実習だけでなく、他の医療職との連携を学ぶため、整形外科医診察時の見学、放射線科の見学なども行った。
- (2) リハビリテーション科 卒後臨床研修

コロナの影響で停止していた卒後臨床研修を再開した。

 - ・卒後臨床研修の趣旨

卒後臨床研修は、柔道整復師が医療人としての人格と医療の果たすべき役割を認識して取り扱う外傷疾患に対して適切に対応し、後療法を

行なえるよう臨床の現場で基礎から実践的な柔道整復学を学び柔道整復師としての必要な知識や能力を身に付けることを目的としている。

- ・ 対象：柔道整復師
- ・ 人数：2名
- ・ 主な特徴
 - a 多様性と柔軟性を持った卒後研修制度
 - b 医療機関との連携の必要性を学べる
 - c 柔道整復師本来の業務である骨折、脱臼の整復を学べるなど
- ・ 研修内容
 - a リハビリ室での見学
 - b 運動器リハビリテーション、骨折、脱臼、捻挫、靱帯損傷等外傷のギプス固定、シーネ固定、テーピング固定、徒手整復を主とした研修。
- ・ 研修期間

週決められた日数を3ヵ月、6ヵ月、1年間のコースを選択して行う。
- ・ 卒後臨床研修コース概要

見学研修を3ヶ月とし、本校柔道整復科卒業生で6ヶ月コース、1年コースを選択したものは3ヶ月の研修後実際に患者さんを治療する臨床研修に移行していく。

5) 奈良テレビ・ラジオ出演（元気もりもり学園）

- ・ 広報活動の一環として実施した

6) スタッフの学術活動状況

(1) 学術参加状況

- ・ 新型コロナウイルス禍の為、オンラインセミナーの参加のみとなった

(2) 加入団体

- ・ 日本医師会
- ・ 大阪府医師会
- ・ 東成医師会
- ・ 日本整形外科学会
- ・ 中部整形外科学会
- ・ 四国整形外科学会
- ・ 整形災害外科学研究助成財団
- ・ 日本内科医学会
- ・ 日本循環器学会
- ・ 日本プライマリケア連合学会

- ・日本看護協会
- ・大阪府看護協会
- ・日本診療放射線技師会
- ・大阪府診療放射線技師会
- ・全国病院理学療法協会
- ・日本理学療法協会
- ・日本柔道整復接骨医学会

1. 保険診療状況

1) 患者動向実績

前年度から続いた新型コロナウイルスの影響がかなり改善した為、全体的に前年度を大きく上回る患者が来院した。

内科部門は前年度と比較し、1,000人以上の大幅増となり（前年度比約130%増）となり、コロナ禍以前の水準まで回復した。

ただ、整形部門は2022年2月より移転告知の開始の影響、およびリハビリスタッフの退職に伴い患者のリハビリ予約が取れないなど、患者数が伸びなかった為、前年度と同程度の水準にとどまった。

2021年度		(上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:人								
		全体			内科			整形		
月	日数	患者数	初診	再診	患者数	初診	再診	患者数	初診	再診
計	238	18,364	2,242	16,122	4,548	575	3,973	13,816	1,667	12,149
	238	17,469	2,280	15,189	3,504	642	2,862	13,965	1,638	12,327
	0	895	▲ 38	933	1,044	▲ 67	1,111	▲ 149	29	▲ 178

2) 保険診療実績

保険請求額は患者動向と同様に、内科部門は311万円（前年度比約17%増）増加し2,111万円の収入となった。整形部門は、ほぼ前年度と同水準となる5,852万円の収入となった。全体では、ほぼ前年度と同水準となる7,963万円となった。

2021年度		(上段:本年度、中段:前年度、下段:差異)単位:人・円								
		全体			内科			整形		
月	日数	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価	患者数	請求金額	平均単価
計	238	18,364	79,639,620	4,337	4,548	21,119,400	4,644	13,816	58,520,220	4,236
	238	17,469	75,882,580	4,344	3,504	18,001,760	5,137	13,965	57,880,820	4,145
	0	895	3,757,040	▲ 7	1,044	3,117,640	▲ 494	▲ 149	639,400	91

※平均単価は端数を四捨五入

3) 自由診療状況

健康診断・予防接種・特定健診・自賠責等の自由診療については、892万円となり、前年度の818万円を約74万円（前年度比約9%増）上回る結果となった。

5. みどりの風鍼灸院

【サマリー】

2020 年からのコロナ禍で患者数の減少が余儀なくされた。臨床実習の充実させるため患者数を増やす対策について。①鍼灸保険治療のホームページの完成。②数年前から保険鍼灸を導入して年々患者数が増加している。③保険診療を希望されるが同意書がとれない患者のための 10 割負担の導入で若干名ではあるが継続来院されている。④2021 年 6 月から往診施術を実施した。1 名の患者が保険診療で往診を継続されている。2021 年度の年間総患者数は 4,313 人(月平均約 359.4 人)となる。前年度 2020 年の 3,895 人(月平均約 324.6 人)と比べて 418 人増(月平均約 34.8 人増)と患者数は増加した。

1) 人員について

常勤 2 名、契約職員 1 名（実習調整者）、嘱託職員 2 名の 5 人体制で対応した。

2) 鍼灸院業務日程について

①診療日数	238 日
②休診日	127 日
a) 土曜・日曜・祝日	119 日
b) 夏期休診日	3 日
c) 年末年始休診日	4 日
d) 開院記念日	1 日

3) 鍼灸院診療時間について

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00~11:00	○	○	○	○	○	×
午後診 1:30~4:00	○	○	○	○	○	×
夜間診 4:30~7:30	○	○	×	○	○	×
休診日	土曜日、日曜日、祝日					

4) 鍼灸院行事日程について

- ①全日本鍼灸学会学術大会（京都）：3 日間（2020 年 6 月：中止）
- ②日本臨床鍼灸懇話会全国集会(大阪)：2 日間（2020 年 11 月：中止）
- ③毎月第 1 金曜日：クリニック・鍼灸院合同定例会議（PM 13:00~13:30）

5) 鍼灸院学術活動報告について

2021 年度の学術活動報告は特になし

6) 鍼灸学科臨床実習について

- ①鍼灸学科臨床実習の日程とプログラムの進行（みどりの風鍼灸院）
従来通りに「各学生の技能に併せた参加・ステップアップ方式」を実施。

②実習参加時間帯（みどりの風鍼灸院）

- ・昼間コース（1～3年）：午前診
- ・夜間コース（1～3年）：午後診
- ・午前コース（1～3年）：午後診

③臨床実習の向上について（教務科と連携：継続）

鍼灸学科学生の実技・臨床能力、臨床実習内容のスキルアップを図る。

- ・1回／月：鍼灸院院長と鍼灸学科科長の定例ミーティングを実施。

④アネックス鍼灸室でのシミュレーション実習＜3年生対象＞（教務科と連携）

鍼灸院スタッフから2名、鍼灸学科教員から2名の4名で対応した。

- ・2021年度6月から開始

a)前期は学生同士で問診から治療までを行った。

b)中期からは鍼灸学科在学の1・2年生年生対象にボランティア患者を募集して初診患者として実践しながらの治療を行った。

7) 卒後研修制度実施について

2015年4月から卒後臨床研修を開始した。

2021年度はコロナ禍のため8月以降から募集を予定していたが緊急事態宣言の発令、及び延長のため中止した。

8) 入学前の鍼灸受療体験の導入（5年目）

最近の鍼灸学科入学者において一度も鍼灸治療を経験したことがない学生が増加傾向にある。そこで、専門学校鍼灸学科の入学内定者に対して、入学者本人と本人の家族1名の無料体験を実施した。

2021年度は17名（内家族3名）が受療を体験した。前年度は21名（内家族7名）

9) 鍼灸療養費払い（鍼灸保険）について

療養費については、鍼灸院スタッフが、療養費払いの手続きをしっかりと理解して、学生に対して“正しい鍼灸療養費制度”の教育に重きを置いて進める方向で始動した。

2021年度は213名。前年度は39名であった。

10) 往診施術について

2021年6月から往診施術を実施した。2021年度は保健鍼灸37名、自費鍼灸0名

◆みどりの風鍼灸院 往診規定

I：往診治療の目的

多様化する患者さんニーズに応えるため

II：往診治療の対象者

来院困難な場合に限る（下記の状態がある場合）

- ・高齢による筋力、体力低下
- ・がんや病気などの全身疾患による体力の低下

- ・急性症状（ギックリ腰など）で動けない

Ⅲ：治療費

1. 自費の場合

初診料 1,000 円

往診料 1,000 円（半径 1 km まで）、 2,000 円（1 km 以上 2km まで）

全身治療 3,300 円

局所治療 1,700 円

2. 保険の場合（以下、Ⅳ. はり師、きゅう師の施術に係る療養費に準ずる）

11) 2020 年度の患者動向と 2021 年度患者動向についての詳細

2020 年度の患者動向表

単位：人

	2020年度						(一般患者に含む)	
	全体患者(新患)	一般患者	小児患者	学生患者	卒業生患者	職員患者	保険患者	往診患者
4月	238 (1)	137	22	36	39	4	0	0
5月	188 (10)	131	3	13	41	0	0	0
6月	299 (15)	162	9	65	56	7	0	0
7月	342 (12)	189	13	93	41	6	0	0
8月	247 (4)	149	9	57	23	9	0	0
9月	336 (13)	190	9	88	35	14	0	0
小計	1650 (55)	958	65	352	235	40	0	0
10月	413 (17)	222	18	124	32	17	0	0
11月	363 (11)	205	13	97	30	18	0	0
12月	381 (14)	209	17	107	35	13	0	0
1月	324 (10)	173	13	92	33	13	7	0
2月	343 (10)	187	16	97	25	18	16	0
3月	421 (15)	234	23	103	34	27	16	0
小計	2245 (77)	1230	100	620	189	106	39	0
計	3895 (132)	2188	165	972	424	146	39	0

2021 年度の患者動向表と前年度比

単位：人

	2021年度						(一般患者に含む)	
	全体患者(新患)	一般患者	小児患者	学生患者	卒業生患者	職員患者	保険患者	往診患者
4月	342 (11)	194	20	67	37	24	18	0
5月	316 (14)	186	22	56	33	19	13	0
6月	396 (18)	220	29	75	49	23	10	1
7月	381 (8)	220	20	77	48	16	16	4
8月	329 (7)	196	21	51	46	15	15	3
9月	358 (7)	229	10	60	40	19	19	5
小計	2122 (65)	1245	122	386	253	116	91	13
10月	384 (9)	239	14	62	45	24	18	4
11月	357 (8)	214	8	62	51	22	16	3
12月	394 (15)	235	20	69	48	22	17	4
1月	369 (19)	233	12	61	44	19	19	4
2月	332 (10)	207	11	56	41	17	24	4
3月	355 (15)	221	9	63	43	19	28	5
小計	2191 (76)	1349	74	373	272	123	122	24
計	4313 (141)	2594	196	759	525	239	213	37
前年度差	418 (9)	406	31	▲213	101	93	174	37

① 年間総患者数について

2021 年度の年間総患者数は 4,313 人(月平均約 359.4 人)となる。前年度 2020 年の 3,895 人(月平均約 324.6 人)と比べて 418 人増(月平均約 34.8 人増)と患者数は増加した。

② 年間新患数について

2021 年度の年間新患数は 141 人(月平均約 11.8 人)となる。前年度 2020 年の 132 人(月平均約 11.0 人)と比べて 9 人増(月平均約 0.8 人増)と新患数は増加した。

③ 年間一般患者数について

2021 年度の年間一般患者数は 2,594 人(月平均約 216.2 人)となる。前年度 2020 年の

2,188人(月平均約182.3人)人と比べて406人増(月平均約33.9人増)と一般患者数は増加した。

④ 年間小児患者数について

2021年度の年間小児患者数は196人(月平均約16.3人)となる。前年度2020年の165人(月平均約13.8人)と比べて31人増(月平均約2.5人増)と小児患者数は増加した。

⑤ 年間学生患者数について

2021年度の年間学生患者数は、759人(月平均約63.3人)となる。前年度2020年の972人(月平均約81.0人)人と比べて213人減(月平均約17.7人減)と学生患者数は減少した。

⑥ 年間卒業生患者数について

2021年度の年間卒業生患者数は525人(月平均約43.8人)となる。前年度2020年の424人(月平均約35.3人)と比べて101人増(月平均約8.5人増)と卒業生患者数は増加した。

⑦ 年間職員患者数について

2021年度の年間職員患者数は239人(月平均約19.9人)となる。前年度2020年の146人(月平均約12.2人)と比べて93人増(月平均約7.7人増)と職員患者数は増加した。

⑧年間療養費(鍼灸保険)患者数について

2021年度の年間鍼灸保険患者数は213人(月平均約17.8人)となる。前年度2020年の39人(月平均約3.3人)と比べて174人増(月平均約14.5人増)と鍼灸保険患者数は増加した。

⑨年間往診患者数について

2021年度の年間往診患者数は37人(月平均約3.1人)となる。前年度2020年の0人と比べて37人増と往診患者数は増加した。

12) 2021年度と前年度の患者数と施術現金収入動向について

	2020年度		2021年度	
	患者数(新患):人	施術収入	患者数(新患):人	施術収入
4月	238(1)	¥543,300	342(11)	¥736,591
5月	188(10)	¥510,200	316(14)	¥684,896
6月	299(15)	¥670,500	396(18)	¥849,595
7月	342(12)	¥749,200	381(8)	¥821,014
8月	247(4)	¥559,200	329(7)	¥813,658
9月	336(13)	¥752,100	358(7)	¥813,580
小計	1650(55)	¥3,784,500	2122(65)	¥4,719,334
10月	413(17)	¥872,014	384(9)	¥870,599
11月	363(11)	¥788,772	357(8)	¥792,409
12月	381(14)	¥815,530	394(15)	¥857,835
1月	324(10)	¥642,845	369(19)	¥824,780
2月	343(10)	¥680,873	332(10)	¥746,137
3月	421(15)	¥820,601	355(15)	¥760,041
小計	2245(77)	¥4,620,635	2191(76)	¥4,851,801
合計	3895(132)	¥8,405,135	4313(141)	¥9,571,135

2021年度鍼灸施術収入は、9,571,135円である。前年の8,405,135円と比べて1,166,000円増と施術収入は増加した。

6. 京都治療院

【サマリー】

2021 年度のコロナ感染数は昨年度より大幅に増加したものの、ワクチン接種、with コロナの社会的認識もあり、昨年度と同程度の鍼灸・接骨の患者数及び売上であった。

また、スポーツ大会等開催が緩和されたものの、大学運動部での新入生勧誘活動等の制限、感染時の練習停止等により、当治療院での主要患者層である大学運動部員の集患が前年同様に厳しい状況であった。

(1) 人員体制

常 勤：柔道整復師 2 名、鍼灸師 1 名 計 3 名

受 付：2 名（午前 1 名、午後 1 名）

(2) 治療院業務日数。

①診療日数 237.5 日

・診療日時 9：00～12：30（受付終了：12:00）／16：00～20：00（受付終了 19:30）

月～金（休診：土・日・祝日・他）

②休診日数 127.5 日

(3) 広報・院外活動

【継続活動】

①トレーナー活動

（京都大学男子ラグロス部、京都大学女子ラグロス部、京都精華高校サッカー部、京都大学男子バスケット部）

②運動部マネージャー等対象とした勉強会開催（ケガ予防やテーピング方法等：年 3～6 回程）

③~~小児鍼普及活動（地域児童館において小児鍼体験講座：9 月 17 日）~~

④治療院前でのブラックボード設置や LINE@、インスタグラム、Facebook による情報発信

⑤近隣大学運動部へのアプローチ（京都大学・京都産業大学）

⑥御所東クリニックとの医療連携

⑦京都大学男子ラグロス部との安全・安心のための部活にしていくための連携

（外部治療院連携）

⑧環境省参画の「熱中症予防 声かけプロジェクト」の活動として、治療院前に「暑さ指数」を掲示し、通行人等へ熱中症の注意喚起を行った。

⑨自費メニューとして、慢性施術・美容・パーソナルトレーニングの実施

【新規活動】

①訴求力を高めるためホームページの公開（2021 年 12 月から）

②6 月より、新規実費治療としてアロマセラピーを開始

③発達障害支援サイト「凸凹じぶんなび」に鍼灸治療についてのコラムを年6回程度掲載

④不登校児支援 NPO 法人「Reframe」運営の「くらら庵」にて2月13日に小児鍼講座を開催(会場5人、オンライン4人)

⑤森ノ宮医療学園専門学校 柔整トレーナーコース1年生の1日見学実習受入(16回:合計32人)

(4) 運営状況等

2021年度は前年よりも新型コロナ感染者数が大幅に増加した。例年、患者数は季節的変動があるが、今年度は、第4波(2021年3月)、第5波(2021年7月)、第6波(2022年2月)による変動が追加され、患者数が減少する月は一層の減少、回復する月は、例年の回復度はなかった。ワクチン接種などにより、競技大会が再開されはじめたが、大学運動部での新入生勧誘活動等の制限、感染時の練習停止等により、当治療院での主要患者層である学校運動部員の集患が前年同様に厳しい状況であった。

【2019年度(コロナ前)から2021年度の患者数と施術売上の推移について】

「2019年度患者数」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計
鍼灸施術数	88	91	103	105	92	90	138	121	119	107	113	0	1,167
接骨施術数	236	275	345	354	303	380	401	339	289	257	325	290	3,794
美容施術数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
その他施術	2	4	11	12	8	5	20	5	0	7	9	40	123
計	326	370	459	471	403	475	559	465	408	371	447	330	5,084

「2020年度患者数」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	前年比
鍼灸施術数	3	50	63	71	78	89	81	97	77	62	66	70	807	69%
接骨施術数	90	84	139	177	167	259	406	370	307	177	157	302	2,635	69%
美容施術数	—	—	10	12	11	15	16	18	15	11	12	10	130	
その他施術	13	7	18	14	24	30	36	48	28	17	31	47	313	
計	106	141	230	274	280	393	539	533	427	267	266	429	3,885	76%

「2021年度患者数」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	19年比
鍼灸施術数	69	63	74	50	58	87	76	85	63	56	48	61	790	68%
接骨施術数	284	220	332	254	174	234	329	291	198	95	92	151	2,654	70%
美容施術数	13	14	14	11	9	9	10	11	13	7	6	10	127	
その他施術	53	55	53	35	36	42	65	48	32	28	52	36	535	
計	419	352	473	350	277	372	480	435	306	186	198	258	4,106	81%

※その他施術は慢性施術、トレーニング(アロマセラピー含まず)

美容施術・その他施術(慢性・トレーニング)においては、売上及び総来院者数は前年度よりも増加したが、本来業務の鍼灸・接骨の施術数はほぼ同数となっている。

「2019 年度売上」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計
鍼灸施術	¥232,100	¥236,120	¥253,360	¥276,600	¥183,360	¥213,420	¥302,620	¥284,940	¥275,340	¥277,160	¥317,570	¥0	2,852,590
接骨施術	¥444,933	¥518,700	¥584,317	¥602,167	¥514,720	¥622,967	¥655,433	¥569,267	¥480,900	¥444,133	¥559,133	¥519,767	6,516,437
美容施術	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	¥14,400	¥25,160	¥42,840	¥78,430	¥61,770	¥54,250	¥54,250	¥26,850	¥7,550	¥19,200	¥37,450	¥167,931	590,081
計	¥691,433	¥779,980	¥880,517	¥957,197	¥759,850	¥890,637	¥1,012,303	¥881,057	¥763,790	¥740,493	¥914,153	¥687,698	9,959,108

「2020 年度売上」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	前年比
鍼灸施術	¥4,000	¥126,970	¥175,670	¥221,490	¥265,310	¥254,670	¥247,400	¥296,570	¥233,820	¥203,100	¥194,710	¥189,430	2,413,140	85%
接骨施術	¥129,567	¥163,900	¥250,633	¥323,367	¥299,233	¥485,467	¥681,303	¥627,247	¥502,967	¥286,190	¥289,933	¥539,117	4,578,924	70%
美容施術	—	¥0	¥63,000	¥81,500	¥74,000	¥103,500	¥106,000	¥130,000	¥101,500	¥82,000	¥78,500	¥67,500	887,500	
その他	¥42,900	¥11,000	¥51,950	¥59,000	¥77,525	¥122,800	¥97,450	¥83,500	¥64,100	¥60,675	¥78,100	¥112,550	861,550	
計	¥176,467	¥301,870	¥541,253	¥685,357	¥716,068	¥966,437	¥1,132,153	¥1,137,317	¥902,387	¥631,965	¥641,243	¥908,597	8,741,114	88%

「2021 年度売上」

	4月度	5月度	6月度	7月度	8月度	9月度	10月度	11月度	12月度	1月度	2月度	3月度	計	19年比
鍼灸施術	¥216,000	¥193,370	¥224,580	¥155,320	¥173,460	¥278,360	¥216,490	¥267,100	¥204,560	¥169,220	¥142,930	¥170,820	¥2,412,210	85%
接骨施術	¥482,060	¥374,067	¥548,983	¥407,200	¥270,070	¥345,247	¥499,200	¥400,800	¥284,867	¥160,333	¥171,160	¥262,233	¥4,206,220	65%
美容施術	¥74,000	¥80,500	¥91,000	¥82,000	¥80,000	¥79,000	¥91,500	¥84,000	¥93,000	¥59,000	¥55,000	¥82,000	¥951,000	
その他	¥85,400	¥100,400	¥92,515	¥102,800	¥121,250	¥65,200	¥100,990	¥74,140	¥83,650	¥106,100	¥119,600	¥62,650	¥1,114,695	
計	¥857,460	¥748,337	¥957,078	¥747,320	¥644,780	¥767,807	¥908,180	¥826,040	¥666,077	¥494,653	¥488,690	¥577,703	¥8,684,125	87%

※労災・自賠責・児童医療・生活保護は含まず。また健康保険による売り上げは発生主義に基づき保険者分も合算
 ※その他はアロマ・慢性施術・トレーニング・物販

2021 年度の売上金額は 8,684,124 円となった。総額は、2019 年度、2020 年度の両年度よりも減少しているが、2020 年度と比べ接骨・鍼灸施術以外の分野の総額は増加した。

7. 出版部

【サマリー】

全国の鍼灸師・柔整師養成校の先駆けとなる森ノ宮ブランドの確立の一翼を担い、学園の出版部として長年培ってきたノウハウを活かしつつ、本出版部ならではの意義を再確認し、学校法人が収益事業として運営している出版部の名に恥じないような活動を実施。

1. 学生、卒業生への知識や情報の開示と還元

1-1 主力雑誌の継続的発刊

Tehamo1（創刊）号から3号までの3号を発刊。継続的かつ予定通りの発刊を行った。『あとはとき』と『鍼灸 OSAKA』を合本し大幅リニューアルした雑誌の刊行を無事実施できた。

テーマ：関節リウマチの治療とQOL・慢性の痛み対策基本法案とは（創刊号）

「痛み」へのアプローチ・国際標準キャッチアップ（2号）

睡眠障害を治療する・あはきと視覚障がい（3号）

視覚支援学校への定期講読案内を実施し、新たに7件の新規定期講読を獲得した。

1-2 既刊本のブラッシュアップ

『ツボ暗記カード』を大幅改訂し、発刊。東洋療法学校協会の推薦図書にもなり、全国の養成校へ贈呈ならびに学生販売の案内を実施し230部を売り上げた。また年間で700部以上を売り上げる書籍となった。

1-3 教科書販売

専門学校新入生の教科書販売も実施し、鍼灸学科 1,142,169 円（販売 7,381,930 円仕入 6,239,761 円）、柔道整復学科 706,483 円（販売 5,462,206 円仕入 4,755,723 円）の売上となった。

2. 学園広報への貢献

2-1 書籍の書店配刊

取次書店を通し全国33店舗に配刊（常備委託）。2020年5月に入れ替え実施。2年常備委

託にあとはときを追加した。

2－2 出展・広告への参画

コロナ禍において従来の出展（全国大会等での対面販売）が難しくなった。インターネット配信による大会実施に伴い、出展もウェブサイト展示会への参画が余儀なくされた。ウェブサイト展示会用サイトを制作し、全日本鍼灸学会、日本東洋医学会、日本伝統鍼灸学会、日本統合医療学会に出展参加した。

日本鍼灸新報、現代鍼灸学、伝統鍼灸、メリディアン、鍼灸柔整新聞、漢方の臨床、中医臨床、経絡治療、日本小児はり学会会誌など学会誌や業界誌へ、販促の重要なツールとして引き続き参画した。

2－3 代田賞

医道の日本社より移管された「代田賞」の事務局を鍼灸情報センターと協力し運営した。また、広報誌の作成と代田賞授賞式イベントの配信を実施した。

3. 収益事業としての継続

3－1 販売管理の徹底

正確なデータを収集するため、受発注者を絞り、入力や発送など基本的事項を見直す作業に費やした。その中で販売ソフトの活用や、管理票、帳票など仕分け、整理も行い、次年度に向けて準備している。「収益拡大」を目標に、ハードル一つ一つを超えることを現段階では重視している。

8. 派遣事業部

【サマリー】

福祉施設へ留学生のアルバイト紹介を行った。
派遣事業として、留学生に対して、労働に対する基本姿勢等を指導した。
新規派遣先福祉施設の開拓を行った。

① 留学生の紹介

・介護福祉学科在学中で学費の支払いやアルバイトに困っている学生に対し、福祉施設の開拓を行い、派遣業務を行った。ただ、新型コロナウイルスの影響で新規留学生が入国できなかったため、派遣する予定であった対象学生を紹介することができなかった。

② 派遣予定学生の確保

・年2回の日本語学科留学生募集時に採用活動を行い、2021年4月に6名、10月に9名の確保ができた。入国次第、派遣を開始する。

③ 派遣先福祉施設の開拓

・ウェルランゲージスクールとして、現在20以上の法人との取引があるが、今後の定員数の増員を見据え、派遣先の福祉施設の開拓が急務となっており、新規開拓営業および既存の取引のある法人へ留学生の追加受け入れの依頼を行った。

④ 契約業務

・3か月に1回、各学生の派遣に対する契約更新有無、法人と学校の情報交換等の業務を行った。

⑤ 経理業務

・派遣先への請求書の作成および派遣学生への給与支払いを行った。

【派遣実績】

2021 年	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
派遣人数	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名	2 名

2022 年	1 月	2 月	3 月
派遣人数	2 名	2 名	1 名

Ⅲ. 決算の概要

- 学校法人会計は、大学の学納金口座振替による前受金収入の減少等から約 12 億円の赤字を見込んでいたが、教育研究費や人件費の圧縮・先送りが予定以上にあった事に加え、専門学校の収支改善、大学学生会や学園校友会からの寄付があったため 7.6 億の赤字に留まった。
- 企業会計は、出版事業が事業開始以来初めて黒字になった他、派遣事業も事業開始年度を黒字でスタートする事ができた。

1. 学校法人会計

(1) 全体収支

項目	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度(予)
前年度繰越支払資金除く収入	5,270,310,241	4,639,292,966	4,061,685,846	4,770,055,000
うち長期借入金	1,453,000,000	360,000,000	370,000,000	100,000,000
翌年度繰越支払資金除く支出	4,984,037,265	4,248,199,805	4,817,861,925	5,045,625,805
うち施設関係支出	2,273,290,431	456,664,546	1,032,145,000	618,450,000
繰越支払支出除く収支	286,272,976	391,093,161	-756,176,079	-275,570,805
翌年度繰越	3,193,151,667	3,584,244,828	2,828,068,749	2,552,497,944

(2) SBU 別収支

施設関係支出除	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度(予)
大学	493,575,715	809,827,020	1,349,696,649	831,587,000
専門学校	-56,840,767	-54,094,883	15,990,662	28,176,839
WLS	-24,472,615	-13,903,473	-64,554,088	-76,540

2. 企業会計

最終損益	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度(予)
出版事業	-588,344	-1,103,875	245,764	-806,792
派遣事業	—	—	291,440	655,000
合計	-588,344	-1,103,875	546,204	-151,792

* 累積赤字が約 3,000 万円あるため非課税

以上